

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目					
							☐回復期リハビリテーション病棟入院料（□1 □2 □3 □4 □5） ☐回復期リハビリテーション入院医療管理料 ☐地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料（□1 □2 □3 □4） ☐特殊疾患病棟入院料（□1 □2） ☐緩和ケア病棟入院料（□1 □2） ☐精神科救急急性期医療入院料 ☐精神科急性期治療病棟入院料（□1 □2） ☐精神科救急・合併症入院料 ☐児童・思春期精神科入院医療管理料 ☐精神療養病棟入院料 ☐認知症治療病棟入院料（□1 □2） ☐精神科地域包括ケア病棟入院料 ☐特定一般病棟入院料（□1 □2） ☐地域移行機能強化病棟入院料 ☐特定機能病院リハビリテーション病棟入院料					
病院・病棟の基礎情報	4	許可病床数・稼働病床数【必須】	病院・病棟	対象月の1ヶ月間	○	稼働病床数＝一般病床数 ＋ 療養病床数 ＋感染症病床数 ＋結核病床数 ＋ 精神病床数	病院の許可病床数（ ）床 病院の稼働病床数（ ）床 （内訳） 一般病床（ ）床療養病床（ ）床 感染症病床（ ）床結核病床（ ）床 精神病床（ ）床 病棟の稼働病床数（ ）床 （内訳） 一般病床（ ）床療養病床（ ）床 感染症病床（ ）床結核病床（ ）床 精神病床（ ）床					
病院・病棟の基礎情報	5	看護職の副院長職	病院	1ヶ月間の対象月の	○		看護職の副院長が○いる○いない					
病院・病棟の基礎情報	6	看護支援システムの導入状況	病院	1ヶ月間の対象月の	○		電子カルテの導入（看護記録の電子化）○あり○なし	勤務計画作成システムの導入○あり○なし	看護必要度管理システムの導入○あり○なし			
病院・病棟の基礎情報	7	職務満足度調査・患者満足度調査	病院	昨年度の1年間	○		職務満足度調査の実施○あり○なし	患者満足度調査の実施○あり○なし	（「あり」の場合）対象部署	☐ 外来	☐ 全病棟	☐ 一部の病棟
病院・病棟の基礎情報	8	病棟の診療科名称【必須】	病棟	対象月の1ヶ月間	○		病棟の診療科について、3つのうち1つをチェックしてください 病棟の診療科 ○内科系 ○外科系 ○内科と外科の混合病棟 入院患者の診療科名称にすべてチェックしてください ☐内科☐消化器内科(胃腸内科)☐糖尿病内科(代謝内科)☐アレルギー科☐小児科☐外科☐乳腺外科☐泌尿器科☐整形外科☐眼科☐産婦人科☐リハビリテーション科☐病理診断科☐歯科☐歯科口腔外科 ☐呼吸器内科☐腎臓内科☐血液内科☐リウマチ科☐精神科☐呼吸器外科☐気管食道外科☐肛門外科☐形成外科☐耳鼻咽喉科☐産科☐放射線科☐臨床検査科☐矯正歯科 ☐循環器内科☐神経内科☐皮膚科☐感染症内科☐心療内科☐心臓血管外科☐消化器外科(胃腸外科)☐脳神経外科☐美容外科☐小児外科☐婦人科☐麻酔科☐救急科☐小児歯科 ⇒ チェックした診療科の中で、もっとも患者数が多い診療科名称（ ）科 ⇒ 単科病棟の場合：標榜診療科（ ）科 ⇒ 混合病棟の場合：「ユニットマネジメント」の実施○あり ○なし					

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
病院・病棟の基礎情報	9	医療職者等の常勤換算数 (管理職を含む)	病院	対象月の1ヶ月間	○	常勤換算数＝ 職員が契約している1週間あたりの労働時間 ÷病院が定めている1週間あたりの所定労働時間	医療職者等の常勤換算数 医師（常勤換算）（ ）人 薬剤師（常勤換算）（ ）人 精神保健福祉士（常勤換算）（ ）人 作業療法士（常勤換算）（ ）人 理学療法士（常勤換算）（ ）人 言語聴覚士（常勤換算）（ ）人 公認心理師（常勤換算）（ ）人 保育士（常勤換算）（ ）人 精神科医師数 精神科医師（常勤換算）（ ）人 うち、精神保健指定医（常勤換算）（ ）人 うち、特定医師（常勤換算）（ ）人 分娩取扱医師数 分娩取扱医師（常勤換算）（ ）人 夜間（午前2時時点）における1日あたりの 分娩取扱医師（実人数）（当直制）（ ）人 小児科医師数（常勤換算）（ ）人
病院・病棟の基礎情報	10	看護要員（実人数） 【必須】	病棟	対象月の1ヶ月間	○		看護師（実人数） ①正規雇用職員：フルタイム勤務正職員（ ）人 ②正規雇用職員：短時間勤務正職員（ ）人 ③上記①②以外の職員（非常勤）（ ）人 ④上記①②のうち管理職（ ）人 ※准看護師、看護補助者、助産師、保健師の職員数も同様に（看護補助者については内数として介護福祉士資格保有者数も）入力します。
病院・病棟の基礎情報	11	看護要員の常勤換算数 (非管理職) 【必須】	病院・病棟	対象月の1ヶ月間	○	100床あたりの常勤換算看護職員数 （ ）人 100床あたりの常勤換算看護師数 （ ）人 100床あたりの常勤換算看護補助者数 （ ）人 100床あたり常勤換算看護職員数・看護師数・看護補助者数 ＝A÷B×100 A：常勤換算看護職員数・看護師数・看護補助者数 B：稼動病床数	看護師（非管理職・常勤換算）（ ）人 准看護師（非管理職・常勤換算）（ ）人 看護補助者（非管理職・常勤換算）（ ）人 助産師（非管理職・常勤換算）（ ）人 保健師（非管理職・常勤換算）（ ）人
病院・病棟の基礎情報	12	看護職員（非管理職・実人数）	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	看護師（実人数）（ ）人 准看護師（実人数）（ ）人 助産師（実人数）（ ）人 保健師（実人数）（ ）人 資格別の看護職員数（非管理職・実人数） ＝A＋B＋C－D A：正規雇用職員（フルタイム勤務正職員） B：正規雇用職員（短時間勤務正職員） C：非常勤職員 D：AとBのうち管理職	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。 ※資格別の看護職員数（非管理職・実人数）を自動計算します。
病院・病棟の基礎情報	13	看護要員（管理職を含む・実人数） 【必須】	病院	対象月の1ヶ月間	○		看護師（実人数）（ ）人 准看護師（実人数）（ ）人 看護補助者（実人数）（ ）人 うち、介護福祉士資格保有（ ）人 助産師（実人数）（ ）人 保健師（実人数）（ ）人 ※資格別の看護職員等（管理職含む・実人数）を自動計算します。 入力の必要はありません。
			病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	看護師（実人数）（ ）人 准看護師（実人数）（ ）人 看護補助者（実人数）（ ）人 うち介護福祉士資格保有者（ ）人 助産師（実人数）（ ）人 保健師（実人数）（ ）人 資格別の看護職員等（管理職を含む・実人数）＝ A＋B＋C A：正規雇用職員（フルタイム勤務正職員） B：正規雇用職員（短時間勤務正職員） C：非常勤職員	
病院・病棟の基礎情報	14	雇用形態別の看護職員の割合	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	正規の看護職員（フルタイム勤務） （ ）％ 正規の看護職員（短時間勤務） （ ）％ 非常勤の看護職員 （ ）％ 雇用形態別の看護職員の割合＝A÷B×100 A：雇用形態別の看護職員数 B：総看護職員数	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
病院・病棟の基礎情報	15	看護職員に占める看護師割合	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	看護職員に占める看護師割合（ ）% 看護職員に占める看護師割合＝A÷B×100 A：看護師数 B：総看護職員数	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
病院・病棟の基礎情報	16	看護職員に占める男性看護職員の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	看護職員に占める男性の割合（ ）% 看護職員に占める男性の割合＝A÷B×100 A：男性の看護職員数（管理職を含む・実人数） B：病院の看護職員数（管理職を含む・実人数）	男性の看護職員数（ ）人
病院・病棟の基礎情報	17	看護職員の教育背景	病棟	対象月の1ヶ月間	○	大学卒業、大学院修了の看護職員割合（ ）% 大学卒業、大学院修了の看護職員割合＝A÷B×100 A：大学卒業・大学院修了の看護職員数（管理職を含む・実人数） B：病棟の看護職員数（管理職を含む・実人数）	入力時点において、 看護系の大学を卒業している看護職員数（ ）人 看護系の修士課程を修了している看護職員数（ ）人 看護系以外の修士課程を修了している看護職員数（ ）人 看護系の博士課程を修了している看護職員数（ ）人 看護系以外の博士課程を修了している看護職員数（ ）人
病院・病棟の基礎情報	18	看護職員に占める専門看護師の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	看護職員に占める専門看護師の割合（ ）% 看護職員に占める専門看護師の割合＝A÷B×1000(%) A：分分野別専門看護師の人数の合計（管理職を含む・実人数） B：病院の看護職員数（管理職を含む・実人数）	がん看護（ ）人 地域看護（ ）人 小児看護（ ）人 慢性疾患看護（ ）人 感染症看護（ ）人 在宅看護（ ）人 災害看護（ ）人 精神看護（ ）人 老人看護（ ）人 母性看護（ ）人 急性・重症患者看護（ ）人 家族支援（ ）人 遺伝看護（ ）人 放射線看護（ ）人
病院・病棟の基礎情報	19	看護職員に占める認定看護師の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	看護職員に占める認定看護師の割合（ ）% 看護職員に占める認定看護師の割合＝A÷B×1000(%) A：分分野別認定看護師の人数の合計（管理職を含む・実人数） B：病院の看護職員数（管理職を含む・実人数）	A課程 救急看護（ ）人 集中ケア（ ）人 がん化学療法看護（ ）人 訪問看護（ ）人 糖尿病看護（ ）人 新生児集中ケア（ ）人 手術看護（ ）人 摂食・嚥下障害看護（ ）人 認知症看護（ ）人 がん放射線療法看護（ ）人 慢性心不全看護（ ）人 皮膚・排泄ケア（ ）人 緩和ケア（ ）人 がん性疼痛看護（ ）人 感染管理（ ）人 不妊症看護（ ）人 透析看護（ ）人 乳がん看護（ ）人 小児救急看護（ ）人 脳卒中リハビリテーション看護（ ）人 慢性呼吸器疾患看護（ ）人 B課程（特定認定看護師） 感染管理（ ）人 がん薬物療法看護（ ）人 クリティカルケア（ ）人 在宅ケア（ ）人 小児プライマリケア（ ）人 心不全看護（ ）人 生殖看護（ ）人 糖尿病看護（ ）人 認知症看護（ ）人 皮膚・排泄ケア（ ）人 がん放射線療法看護（ ）人 緩和ケア（ ）人 呼吸器疾患看護（ ）人 手術看護（ ）人 新生児集中ケア（ ）人 腎不全看護（ ）人 摂食嚥下障害看護（ ）人 乳がん看護（ ）人 脳卒中看護（ ）人
病院・病棟の基礎情報	20	看護職員に占める認定看護管理者の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	看護職員に占める認定看護管理者の割合（ ）% 看護職員に占める認定看護管理者の割合＝A÷B×1000(%) A：認定看護管理者の人数（管理職を含む・実人数） B：病院の看護職員数（管理職を含む・実人数）	認定看護管理者の人数（ ）人 認定看護管理者教育課程を修了した看護職員数 ファーストレベル（ ）人 セカンドレベル（ ）人 サードレベル（ ）人
病院・病棟の基礎情報	21	看護職員の平均年齢	病棟	1ヶ月間の対象月	○		看護職員の平均年齢（ ）歳
病院・病棟の基礎情報	22	年齢分布別看護職員の割合	病棟	1ヶ月間の対象月	○	年齢分布別の看護職員割合（ ）% 年齢分布別の看護職員割合＝A÷B×100 A：年齢分布別の看護職員数（管理職を含む・実人数） B：病棟の看護職員数（管理職を含む・実人数）	～24歳（ ）人 30～34歳（ ）人 40～44歳（ ）人 50～59歳（ ）人 25～29歳（ ）人 35～39歳（ ）人 45～49歳（ ）人 60歳以上（ ）人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
病院・病棟の基礎情報	23	臨床経験年数別の看護職員の割合	病棟	対象月の1ヶ月間	○	臨床経験年数別の看護職員割合 () % 臨床経験年数3年未満の看護職員割合 () % 臨床経験年数10年以上の看護職員割合 () % 臨床経験年数別の看護職員割合 ＝ A ÷ B × 100 A：臨床経験年数別の看護職員数 (管理職を含む・実人数) B：病棟の看護職員数 (管理職を含む・実人数)	1年未満 () 人 1年以上3年未満 () 人 3年以上5年未満 () 人 5年以上10年未満 () 人 10年以上15年未満 () 人 15年以上20年未満 () 人 20年以上25年未満 () 人 25年以上 () 人
病院・病棟の基礎情報	24	勤続年数別の看護職員の割合	病棟	対象月の1ヶ月間	○	勤続年数別の看護職員割合 () % 勤続年数3年未満の看護職員割合 () % 勤続年数5年以上の看護職員割合 () % 勤続年数別の看護職員割合 ＝ A ÷ B × 100 A：当該病棟における勤続年数別の看護職員数 (管理職を含む・実人数) B：病棟の看護職員数 (管理職を含む・実人数)	1年未満 () 人 1年以上3年未満 () 人 3年以上5年未満 () 人 5年以上10年未満 () 人 10年以上15年未満 () 人 15年以上20年未満 () 人 20年以上25年未満 () 人 25年以上 () 人
病院・病棟の基礎情報	25	新卒採用者の割合	病棟	1ヶ月間の対象月	○	新卒採用者の割合 () % 新卒採用者の割合＝ A ÷ B × 100 A：新卒の看護職員採用者数 (実人数) B：病棟の看護職員数 (管理職を含む・実人数)	月末時点で在籍している今年度の新卒の看護職員採用者数 () 人
病院・病棟の基礎情報	26	既卒採用者の割合	病棟	1ヶ月間の対象月	○	既卒採用者の割合 () % 既卒採用者の割合＝ A ÷ B × 100 A：既卒の看護職員採用者数 (管理職を含む・実人数) B：病棟の看護職員数 (管理職を含む・実人数)	月末時点で在籍している今年度の既卒の看護職員採用者数 () 人
病院・病棟の基礎情報	27	看護要員離職率	病院	昨年度の1年間	○	看護職員離職率 () % 看護職員離職率＝昨年度の看護職員の総退職者数 ÷ 昨年度の平均職員数 × 100 昨年度の平均職員数＝ [(①+{①+②+③-④})] ÷ 2 新卒看護職員離職率 () % 新卒看護職員離職率＝昨年度内に退職した新卒採用者数 ÷ 昨年度の新卒採用者数 × 100 既卒看護職員離職率 () % 既卒看護職員離職率＝昨年度内に退職した既卒採用者数 ÷ 昨年度の既卒採用者数 × 100 正規(非常勤)看護補助者離職率 () % 看護補助者離職率＝昨年度の看護補助者の総退職者数 ÷ 昨年度の平均看護補助者数 × 100 昨年度の平均看護補助者数＝ [(⑦+{⑦+⑧-⑨})] ÷ 2 入職1年以内での看護補助者離職率 () % 入職1年以内での看護補助者離職率＝昨年度内に退職した看護補助者採用者数 ÷ 昨年度の看護補助者採用者数 × 100	【正規雇用の看護職員離職率】 ①昨年度はじめの在籍職員数(4月1日付の新規採用者を除く) () 人 ②昨年度(4月1日～翌年3月31日)の新卒採用者数 () 人 ③昨年度(4月1日～翌年3月31日)の既卒採用者数 () 人 ④昨年度(4月1日～翌年3月31日)の総退職者数 () 人 ⑤昨年度(4月1日～翌年3月31日)の新卒採用者数のうち、年度末(3月31日)までに退職した新卒採用者数 () 人 ⑥昨年度(4月1日～翌年3月31日)の既卒採用者のうち、年度末(3月31日)までに退職した既卒採用者数 () 人 【看護補助者離職率】 ⑦昨年度はじめの在籍看護補助者数(4月1日付の新規採用者を除く) () 人 ⑧昨年度(4月1日～翌年3月31日)の看護補助者採用者数 () 人 ⑨昨年度(4月1日～翌年3月31日)の看護補助者総退職者数 () 人 ⑩昨年度(4月1日～翌年3月31日)の看護補助者採用者のうち、年度末(3月31日)までに退職した看護補助者採用者数 () 人 ※看護補助者離職率は正規・非常勤を分けて入力します
病院・病棟の基礎情報	28	看護職員に占める休職者割合	病院	昨年度の1年間	○	【病院】 看護職員に占める休職者割合 () % 看護職員に占める休職者割合＝ A ÷ B × 100 A：休職理由別看護職員数の合計(実人数) B：昨年度の病院看護職員数 (管理職を含む・実人数)	【病院】 昨年度の病院全体の休職理由別看護職員数(正規雇用) 産休・育休 () 人 病気 () 人 うち、メンタルヘルス不調 () 人 介護 () 人 その他 () 人
病院・病棟の基礎情報	29	看護補助者への研修	病院	昨年度の1年間	○	看護補助者への年間の総研修時間 () 分 看護補助者への年間の総研修時間 ＝ A × B + C A：年間の実施回数 B：一回あたりの平均時間数(分) C：DVDやE-Learningによる研修時間(分)	看護補助者の業務基準の有無 ○あり ○なし 診療報酬で示されている所定の研修を修了した(修了証が交付されているもの)看護師長等の人数 () 人 看護補助者への研修の実施 ○あり ○なし 研修方法 □対面式 □DVDやE-Learning 昨年度の実施頻度 対面式による研修の年間実施回数 () 回/年 一回あたりの平均時間数 () 分/回 DVDやE-Learningによる研修時間 () 分

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
患者像・看護職の労働状況	3	65歳以上の年齢階層別患者の割合	病棟	対象月の1ヶ月間		年齢階層別の患者割合 () % 65歳以上の患者割合 () % 75歳以上の患者割合 () % 年齢階層別の患者割合 = A ÷ B × 100 A：年齢階層別の患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数（実人数） ※年齢層別の患者割合が、自動計算されます。	65歳以上75歳未満の患者数 () 人 75歳以上80歳未満の患者数 () 人 80歳以上90歳未満の患者数 () 人 90歳以上の患者数 () 人
患者像・看護職の労働状況	4	手術件数の割合	病棟	1ヶ月間の		手術件数の割合 () % 手術件数の割合 = A ÷ B × 100 A：手術後に直接、病棟に帰室した手術患者の件数＋ICUや他病棟から移動してきた手術患者の件数（①＋②） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	①手術後に直接、病棟に帰室した手術患者の件数 () 件 ②ICUや他病棟から移動してきた手術患者の件数 () 件
患者像・看護職の労働状況	5	緊急入院件数の割合	病棟	1ヶ月間の		緊急入院件数の割合 () % 緊急入院件数の割合 = A ÷ B × 100 A：1ヶ月間の緊急（予定外）入院件数 B：1ヶ月間の入院件数	1ヶ月間の緊急（予定外）入院件数 () 件 1ヶ月間の入院件数（入院実患者数から、各月の1日0時時点に在棟していた患者数を除いた人数） () 件
患者像・看護職の労働状況	6	入院患者の重症度、医療・看護必要度平均値	病棟	対象月の1ヶ月間			「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」の種類 ☐ 一般病棟用 ☐ 一般病棟用（地域包括ケア病棟入院料） ☐ ハイケアユニット用 ☐ 特定集中治療室用 「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」 A得点（モニタリング及び処置等）の平均値 () 点 B得点（患者の状況等）の平均値 () 点 B得点のうち「診療・療養上の指示が通じる」の平均値 () 点 B得点のうち「危険行動」の平均値 () 点 C得点（手術等の医学的状況）の平均値 () 点 診療実績データを用いた「重症度、医療・看護必要度Ⅱ」 A得点（モニタリング及び処置等）の平均値 () 点 B得点（患者の状況等）の平均値 () 点 B得点のうち「診療・療養上の指示が通じる」の平均値 () 点 B得点のうち「危険行動」の平均値 () 点 C得点（手術等の医学的状況）の平均値 () 点
患者像・看護職の労働状況	7	重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合	病棟	対象月の1ヶ月間		「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」において、入院基本料の施設基準を満たす割合 () % 「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」において、入院基本料の施設基準を満たす割合 = A ÷ B × 100 A：「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」において、入院基本料の施設基準を満たす患者延べ人数 B：重症度、医療・看護必要度を評価した病棟の在院患者延べ人数 *計算式は評価票の種類によらず同じです。 *「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」及び、診療実績データによる「重症度、医療・看護必要度Ⅱ」の両データについて、自動計算します。	「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」の種類 ☐ 一般病棟用（急性期一般入院料1、特定機能病院入院基本料7対1、専門病院入院基本料7対1） ☐ 一般病棟用 ☐ 一般病棟用（地域包括医療病棟入院料） ☐ 一般病棟用（地域包括ケア病棟入院料） ☐ ハイケアユニット用 ☐ 特定集中治療室用 「重症度、医療・看護必要度Ⅰ」 「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」において、入院基本料の該当患者の基準を満たす患者割合 () % 診療実績データによる「重症度、医療・看護必要度Ⅱ」 「重症度、医療・看護必要度に係る評価票」において、入院基本料の該当患者の施設基準を満たす患者割合 () %
患者像・看護職の労働状況	8	医療区分・ADL区分	病棟	対象月の		医療区分3（疾患・状態）の患者割合 () % 医療区分3（疾患・状態）の患者割合 = A ÷ B × 100 A：入院料（1～9、28～30）の患者延べ人数 B：1ヶ月間に入院料（1～30）を算定した患者延べ人数の合計 医療区分3（処置等）の患者割合 () % 医療区分3（処置等）の患者割合 = C ÷ B × 100 C：入院料（1～3、10～12、19～21）の患者	医療区分（9分類）とADL区分（3分類）、スモンに基づく、入院料別の算定した患者延べ人数 入院料1 () 人 入院料2 () 人 入院料3 () 人 入院料4 () 人 入院料5 () 人 入院料6 () 人 入院料7 () 人 入院料8 () 人 入院料9 () 人 入院料10 () 人 入院料11 () 人 入院料12 () 人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
職の労働状況	8	分（療養病棟）	棟	1ヶ月間		延べ人数 B：1ヶ月間に入院料（1～30）を算定した患者延べ人数の合計 ADL区分3の患者割合（ ）% ADL区分3の患者割合＝D÷B×100 D：入院料（1、4、7、10、13、16、19、22、25、28）の患者延べ人数 B：1ヶ月間に入院料（1～30）を算定した患者延べ人数の合計	入院料13（ ）人 入院料14（ ）人 入院料15（ ）人 入院料16（ ）人 入院料17（ ）人 入院料18（ ）人 入院料19（ ）人 入院料20（ ）人 入院料21（ ）人 入院料22（ ）人 入院料23（ ）人 入院料24（ ）人 入院料25（ ）人 入院料26（ ）人 入院料27（ ）人 入院料28（ ）人 入院料29（ ）人 入院料30（ ）人
患者像・看護職の労働状況	9	認知症高齢者の日常生活自立度	病棟	対象月の1ヶ月間		認知症高齢者の「日常生活自立度判定基準」がランクⅢ以上の患者割合（ ）% 認知症高齢者の「日常生活自立度判定基準」がランクⅢ以上の患者割合＝A÷B×100 A：1ヶ月間で「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」がランクⅢ以上の患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	1ヶ月間で「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」がランクⅢ以上の患者数（実人数）（ ）人
患者像・看護職の労働状況	10	入室時の生理学的スコアと専門看護師、認定看護師配置（特定集中治療室）	病棟	対象月の1ヶ月間	○（S O F Aスコア以外）		※特定集中治療室のみ入力してください。 入室時の生理学的スコア（Sofaスコア） 平均値（ ）点 ICU所属の急性・重症患者看護専門看護師（実人数）（ ）人 ICU所属の認定看護師（集中ケア、救急看護、クリティカルケア）（実人数）（ ）人 ICU所属の認定看護師（新生児集中ケア）（実人数）（ ）人 ICU所属の認定看護師（小児救急、小児プライマリケア）（実人数）（ ）人 ICU所属の特定看護師（関連する全8区分修了者）（実人数）（ ）人
患者像・看護職の労働状況	11	週休形態	病院	対象月の1ヶ月間	○		○完全週休2日制（1週に必ず2日の休日） ○4週8休（4週に8日の休日） ○月3回週休2日制（4週に7日の休日） ○月2回週休2日制（4週に6日の休日） ○月1回週休2日制（4週に5日の休日） ○週休1日半制（土曜日等の半日勤務） ○週休1日制 ○その他（ ）
患者像・看護職の労働状況	12	週あたりの所定労働時間数	病院・病棟	対象月の1ヶ月間	○		【病院】 正規の看護職員（フルタイム勤務）（ ）時間（ ）分／週 【病棟】 正規の看護職員（フルタイム勤務）（ ）時間（ ）分／週 正規の看護職員（短時間勤務）平均（ ）時間（ ）分／週 最長（ ）時間（ ）分／週 最短（ ）時間（ ）分／週 非常勤の看護職員 平均（ ）時間（ ）分／週 最長（ ）時間（ ）分／週 最短（ ）時間（ ）分／週
患者像・看護職の労働状況	13	年間休日総数	病院	昨年度の1年間	○		昨年度の正規の看護職員（フルタイム勤務）の所定の年間休日総数（ ）日
患者像・看護職の労働状況	14	平均年次有給休暇取得率	病院・病棟	昨年度の1年間	○	【病棟】 平均年次有給休暇取得率（ ）% 平均年次有給休暇取得率＝A÷B×100 A：平均年次有給休暇取得日数 B：年次有給休暇の平均付与日数	【病院】 昨年度の正規の看護職員（フルタイム勤務）の年次有給休暇の平均付与日数（ ）日 昨年度の正規の看護職員（フルタイム勤務）の平均年次有給休暇取得率（ ）% 【病棟】 昨年度に取得された、正規の看護職員（フルタイム勤務）の平均年次有給休暇取得日数（ ）日
患者像・看護職の労働状況	15	院内保育所の設置・夜間保育の実施	病院	1ヶ月間	○		院内保育所の設置 ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし 夜間保育の実施 ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
患者像・看護職の労働状況	16	夜勤負担軽減のための配慮	病棟	対象月の1ヶ月間	○		『看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン』の「勤務編成の基準」 1. 勤務間隔 【勤務と勤務の間隔は11時間以上あける】 ○実施した ○実施していない 2. 勤務の拘束時間 【勤務の拘束時間は13時間以内とする】 ○実施した ○実施していない 3. (三交代制のある病棟のみ回答してください) 夜勤回数 【三交代制勤務は月8回以内を基本とし、それ以外の交代制勤務は労働時間などに応じた回数とする】 ○実施した ○実施していない 4. 夜勤の連続回数 【夜勤の連続回数は、2連続(2回)までとする】 ○実施した ○実施していない 5. 連続勤務日数 【連続勤務日数は5日以内とする】 ○実施した ○実施していない 6. 休憩時間 【休憩時間は、夜勤の途中で1時間以上、日勤時は労働時間の長さ と労働負荷に応じた時間数を確保する】 ○実施した ○実施していない 7. 夜勤時の仮眠 【夜勤の途中で連続した仮眠時間を設定する】 ○実施した ○実施していない 8. 夜勤後の休息(休日を含む) 【夜勤後の休息について、2回連続夜勤後には おおむね48時間以上を確保する。1回の夜勤後についてもおおむね24時間以上を 確保することが望ましい】 ○実施した ○実施していない 9. 週末の連続休日 【少なくとも1ヶ月以内に1回は土曜・日曜ともに 前後に夜勤のない休日をつくる】 ○実施した ○実施していない 10. (三交代制のある病棟のみ回答してください) 交代の方向 【交代の方向は正循環の交代周期とする】 ○実施した ○実施していない 11. 早出の始業時刻 【夜勤・交代制勤務者の早出の始業時間は7時よりも前を避ける】 ○実施した ○実施していない 「夜勤にかかる配慮」 (二交代制の場合) 仮眠2時間を含む休憩時間の確保 ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし
患者像・看護職の労働状況	17	勤務形態別の夜勤配置看護職員数	病棟	対象月の1ヶ月間	○		□三交代制(3つの勤務帯の拘束時間が等しい交代制) □変則三交代制(3つの勤務帯の拘束時間が異なる交代制) □二交代制(2つの勤務帯の拘束時間が等しい交代制) □変則二交代制(2つの勤務帯の拘束時間が異なる交代制) ⇒1日あたりの夜勤配置看護職員数(実人数) 平日()人 土日祝日()人 病棟内で複数の勤務形態が適用されている場合、もっとも多くの看護職員に 適用されている勤務形態を選択してください。() □当直制(施設内で待機し、必要時に勤務につく) ⇒1日あたりの夜勤配置看護職員数(実人数) 平日()人 土日祝日()人 □オンコール体制(緊急時対応可能な範囲に待機し、呼び出しに応じて勤務につく) ⇒1日あたりの夜勤配置看護職員数(実人数) 平日()人 土日祝日()人
患者の労働状況・看護職	18	看護要員の月間総勤務時間数(非管理職)	病棟	1ヶ月間の対象月の			非管理職の看護要員の合計値： 看護師 月間の総勤務時間数()時間 准看護師 月間の総勤務時間数()時間 看護補助者 月間の総勤務時間数()時間 助産師 月間の総勤務時間数()時間 保健師 月間の総勤務時間数()時間
患者像・看護職の労働状況	19	看護職員の時間外労働時間(非管理職)	病院	昨年度1年間	○	【病院】 昨年度1年間の1人あたりの平均時間外労働時間=A÷B A：毎月の看護職員の時間外労働時間数の12ヶ月分の合計 B：昨年度の病院の在籍看護職員数	【病院】 昨年度1年間の1人あたりの平均時間外労働時間(非管理職) ()時間 *左記の計算式を用いて計算した値を入力してください
			病棟	1ヶ月間の対象月の		【病棟】 1ヶ月間の1人あたり月平均時間外労働時間数(非管理職)=C÷D C：毎日の看護職員の時間外労働時間数の1ヶ月分の合計 D：看護職員の実人数(病院・病棟の基礎情報12) ----- 24時間超の時間外労働をおこなった看護職員割合(非管理職)=E÷D E：1ヶ月間の時間外労働時間数が24時間以上の看護職員数(非管理職) D：看護職員の実人数(病院・病棟の基礎情報12)	【病棟】 1ヶ月間の1人あたりの平均時間外労働時間数(非管理職) ()時間 1ヶ月間の時間外労働時間数が24時間超の看護職員数(非管理職) ()人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
患者像・看護職の労働状況	20	夜勤従事看護要員（非管理職）の月間総夜勤時間数	病棟	対象月の1ヶ月間			【看護職員】 ①夜勤専従者の月間総夜勤時間数 () 時間 →144時間を超えている夜勤専従者数（実人数） () 人 ②-a【急性期一般入院基本料、7対1入院基本料、又は10対1入院基本料の病棟】 夜勤時間16時間未満の看護職員の月間総夜勤時間数 () 時間 ②-b【②-a以外の病棟】 夜勤時間8時間未満の看護職員の月間総夜勤時間数 () 時間 ③夜勤時間12時間以上の短時間正職員の月間総夜勤時間数 () 時間 ④ ①②③以外の夜勤従事看護職員の月間総夜勤時間数 () 時間 ※④とは交代制で日勤・夜勤に従事する看護職員を指します 【看護補助者】 夜勤従事看護補助者の月間総夜勤時間数 () 時間
患者像・看護職の労働状況	21	夜勤従事看護要員（非管理職）の1人あたり月平均夜勤時間数	病棟	対象月の1ヶ月間		看護職員（非管理職）の1人あたり月平均夜勤時間数 () 時間 看護職員（非管理職）の1人あたり月平均夜勤時間数＝A÷B A：夜勤従事看護職員（非管理職）のG46 月間総夜勤時間数（労働状況12の③＋④） B：夜勤従事看護職員数（非管理職の常勤換算人数）（労働状況13の③＋④） ※上記計算は、分母、分子ともに、①夜勤専従者、②-a夜勤時間16時間未満、および②-b夜勤時間8時間未満の看護職員は計算から除外されます。	【看護職員】 ①夜勤専従者数(常勤換算) () 人 ②-a【急性期一般入院基本料、7対1入院基本料、又は10対1入院基本料の病棟】 夜勤時間16時間未満の看護職員数（常勤換算） () 人 ②-b【②-a以外の病棟】 夜勤時間8時間未満の看護職員数（常勤換算） () 人 ③ 夜勤時間12時間以上の短時間正職員数(常勤換算)) () 人 ④ ①②③以外の夜勤従事看護職員数(常勤換算) () 人 ※④とは交代制で日勤・夜勤に従事する看護職員を指します。 【看護補助者】 夜勤従事看護補助者数（常勤換算） () 人
患者労働・看護状況	22	月平均1日あたり看護配置数（非管理職）	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	月平均1日あたり看護配置数 () 人 月平均1日あたり看護配置数＝A÷B A：看護職員の月間総勤務時間数の合計 B：月の日数×8時間（1勤務帯あたり8時間を標準として計算する）	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
患者像・看護職の労働状況	23	患者1人1日あたり看護職員労働時間（非管理職）	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	患者1人1日あたりの、看護職員の労働時間(非管理職) () 時間 患者1人1日あたりの、看護職員の夜勤時間帯での労働時間(非管理職) () 時間 患者1人1日あたりの、看護職員の労働時間(非管理職)＝(A＋B＋C＋D)÷J 患者1人1日あたりの、看護職員の夜勤時間帯での労働時間(非管理職)＝(E＋F＋G＋H)÷J A：看護師：月間の総勤務時間数 B：准看護師：月間の総勤務時間数 C：助産師：月間の総勤務時間数 D：保健師：月間の総勤務時間数 E：①夜勤専従者の月間の総夜勤時間数 F：②-a夜勤時間16時間未満の看護職員の月間総夜勤時間数又は ②-b夜勤時間8時間未満の看護職員の月間総夜勤時間数 G：③夜勤12時間以上の短時間正職員の月間総夜勤時間数 H：④ ①②③以外の月間総夜勤時間数 J：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
患者労働状況・看護職の	24	月平均1日あたり夜間配置数（非管理職）	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	非管理職の看護職員： 月平均1日あたり夜間配置数 () 人 月平均1日あたり夜間配置数＝A÷B A：看護職員の月間総夜勤時間数の合計 B：月の日数×16時間（夜勤は16時間を標準として計算）	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
患者像・看護職の労働状況	25	看護要員に占める夜勤従事者割合（非管理職）	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	看護職員に占める夜勤従事者割合（非管理職） () % 看護職員に占める夜勤従事者割合（非管理職）＝A÷B×100 A：夜勤従事看護職員数（非管理職の常勤換算）（労働状況13の①＋②＋③＋④） B：常勤換算看護師数＋准看護師数＋助産師数＋保健師数（病院・病棟の基礎情報11） 看護補助者に占める夜勤従事者割合 () % 看護補助者に占める夜勤従事者割合＝C÷D×100 C：夜勤従事看護補助者数（常勤換算）（労働状況13） D：常勤換算看護補助者数（病院・病棟の基礎情報11）	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
患者像・看護職の労働状況	26	看護職員の実際の人員配置(非管理職)	病棟	1ヶ月間の対象月間	入力なし	看護職員の実際の人員配置(非管理職) ()対1 看護職員の実際の人員配置(非管理職) ＝A÷(B÷(3勤務帯×8時間)) A：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 B：非管理職の看護職員(看護師・准看護師・助産師・保健師)の月間総勤務時間数の合計	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
患者像・看護職の労働状況	27	稼働病床の病床稼働率	病院	1年間の昨年度の	○	病院の昨年度の年間平均病床稼働率 ＝A÷B×100 A：月間在院患者延べ人数の4月～翌年3月の合計 B：(月間日数×月末病床数)の4月～翌年3月の合計	病院の昨年度の年間平均病床稼働率 () % *左記の計算式を用いて計算した値を入力してください
			病棟	1ヶ月間の対象月間		病棟の月間平均病床稼働率＝A÷B×100 A：月間在院患者延べ人数 B：月間日数×月末病床数	病棟の月間平均病床稼働率 () % *左記の計算式を用いて計算した値を入力してください
患者像・看護職の労働状況	28	平均在院日数【病棟単位：必須】	病院	1年間の昨年度の	○	病院の年間平均在院日数＝A÷B A：月間在院患者延べ人数の4月～翌年3月までの合計 B：(年間の新入院患者数＋年間の退院患者数)÷2	病院の昨年度の年間平均在院日数 () 日 *左記の計算式を用いて計算した値を入力してください
			病棟	対象月の1ヶ月間		月間平均在院日数＝A÷B A：当該病棟における1ヶ月間の在院患者延べ人数 B：(当該病棟における1ヶ月間の新入棟患者数＋当該病棟における1ヶ月間に転出した患者数)÷2 病棟の病床回転率 () % 病棟の病床回転率 ＝当該月の暦日数÷月間平均在院日数	病棟の月間平均在院日数 () 日 *左記の計算式を用いて計算した値を入力してください
診療報酬の算定状況	1	救急・在宅等支援病床初期加算等	病院	対象月の1ヶ月間		【地域包括ケア病棟入院届出病棟】 急性期患者支援病床初期加算算定割合 () % 在宅患者支援病床初期加算算定割合 () % 急性期患者支援病床初期加算算定割合＝A÷C×100 在宅患者支援病床初期加算算定割合＝B÷C×100 A：急性期患者支援病床初期加算が算定された患者数(実人数) B：在宅患者支援病床初期加算が算定された患者数(実人数) C：1ヶ月間の地域包括ケア病棟入院料届出病棟の入院実患者数 【療養病棟入院基本料届出病棟】 急性期患者支援療養病床初期加算算定割合 () % 急性期患者支援療養病床初期加算算定割合＝D÷F×100 在宅患者支援療養病床初期加算算定割合＝E÷F×100 D：急性期患者支援療養病床初期加算が算定された患者数(実人数) E：在宅患者支援療養病床初期加算が算定された患者数(実人数) F：1ヶ月間の療養病棟入院基本料届出病棟の入院実患者数 【地域一般入院基本料、特定一般病棟入院料届出病棟】 救急・在宅等支援病床初期加算算定割合 () % 救急・在宅等支援病床初期加算算定割合＝G÷H×100 G：救急・在宅等支援病床初期加算が算定された患者数 H：1ヶ月間の地域一般入院基本料、特定一般病棟入院料届出病棟の入院実患者数	【地域包括ケア病棟入院料届出病棟】 1ヶ月間の地域包括ケア病棟入院料届出病棟の入院実患者数 () 人 急性期患者支援病床初期加算を算定した患者数(実人数) () 人 在宅患者支援病床初期加算を算定した患者数(実人数) () 人 【療養病棟入院基本料届出病棟】 1ヶ月間の療養病棟入院基本料届出病棟の入院実患者数 () 人 急性期患者支援療養病床初期加算を算定した患者数(実人数) () 人 在宅患者支援療養病床初期加算を算定した患者数(実人数) () 人 【地域一般入院基本料、及び特定一般病棟入院料届出病棟】 1ヶ月間の地域一般入院基本料、及び特定一般病棟入院料届出病棟の入院実患者数 () 人 救急・在宅等支援病床初期加算を算定した患者数(実人数) () 人
診療報酬の算定状況	2	在宅復帰機能強化加算(療養病棟)	病院	1ヶ月間の対象月間	○		在宅復帰機能強化加算の算定 (対象病院：療養病棟入院基本料1) ○あり ○なし ○該当せず

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
報酬の算定状況	6	看護補助加算	病院	月の1ヶ月間	○		看護補助加算の算定 (対象病院：障害者施設等入院基本料7対1と10対1) ○ 看護補助加算 ○ 看護補助体制充実加算 ○なし ○該当せず (「看護補助加算」もしくは「看護補助体制充実加算」を算定している場合) 夜間看護体制加算の算定 ○あり ○なし (「看護補助体制充実加算」を算定している場合) 届出区分 ○看護補助体制充実加算1 ○看護補助体制充実加算2 ○看護補助体制充実加算3 看護補助加算の算定 (対象病院：小児入院医療管理料1・2・3) ○あり ○なし ○該当せず (「あり」の場合) 看護補助体制充実加算 ○あり ○なし 看護補助者配置加算の算定 (対象病院：地域包括ケア病棟入院料) ○ 看護補助者配置加算 ○ 看護補助体制充実加算 ○なし ○該当せず (「看護補助体制充実加算」を算定している場合) 届出区分 ○看護補助体制充実加算1 ○看護補助体制充実加算2 ○看護補助体制充実加算3
診療報酬の算定状況	7	夜間看護加算 (療養病棟)	病院	1 対象月の月間	○		夜間看護加算の算定 (対象病院：療養病棟入院基本料) ○ 夜間看護加算 ○ 看護補助体制充実加算 ○なし ○該当せず (「看護補助体制充実加算」を算定している場合) 届出区分 ○看護補助体制充実加算1 ○看護補助体制充実加算2 ○看護補助体制充実加算3
診療報酬の算定状況	8	看護補助体制加算等 (地域包括医療病棟)	病院	1 対象月の月間	○		看護補助体制加算の算定 (対象病院：地域包括医療病棟入院料) ○あり ○なし ○該当せず (「あり」の場合) 届出区分 ○25対1 (看護補助者5割以上) ○25対1 (看護補助者5割未満) ○50対1 ○75対1 (「看護補助体制加算」を算定している場合) 夜間看護補助体制加算の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 届出区分 ○夜間30対1 ○夜間50対1 ○夜間100対1 (「夜間看護補助体制加算」を算定している場合) 夜間看護体制加算の算定 ○あり ○なし (「看護補助体制加算」を算定している場合) 看護補助体制充実加算の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 届出区分 ○看護補助体制充実加算1 ○看護補助体制充実加算2 ○看護補助体制充実加算3
診療報酬の算定状況	9	緩和ケア診療加算	病院	1 対象月の月間	○		緩和ケア診療加算の算定 □あり ○なし 小児緩和ケア診療加算の算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	10	精神科リエゾンチーム加算	病院	1 対象月の月間	○		精神科リエゾンチーム加算の算定 (対象病院：急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、特定機能病院入院基本料 (一般病棟)、専門病院入院基本料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料 等) ○あり ○なし ○該当せず
診療報酬の算定状況	11	栄養サポートチーム加算	病院	1 対象月の月間	○		栄養サポートチーム加算の算定 (対象病院：急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料 (一般・結核・精神病棟)、専門病院入院基本料、結核病棟入院基本料、精神病棟入院基本料、障害者施設等入院基本料、地域包括医療病棟入院料) ○あり ○なし ○該当せず
診療報酬の算定状況	12	医療安全対策加算	病院	対象月の1ヶ月間	○		○医療安全対策加算1の算定あり ○医療安全対策加算2の算定あり ○医療安全対策加算の算定なし ○該当せず (特別入院基本料) (医療安全対策加算1又は2を算定「あり」の場合) ○医療安全対策地域連携加算1の算定あり ○医療安全対策地域連携加算2の算定あり ○算定なし ○該当せず (特定機能病院)

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
診療報酬の算定状況	13	感染対策向上加算	病院	対象月の1ヶ月間	○		○感染対策向上加算1の算定あり ○感染対策向上加算2の算定あり ○感染対策向上加算3の算定あり ○感染対策向上加算の算定なし ○該当せず（特別入院基本料） (感染対策向上加算1の算定「あり」の場合) 指導強化加算の算定 ○あり ○なし (感染対策向上加算2又は3を算定「あり」の場合) 連携強化加算の算定 ○あり ○なし サーベイランス強化加算の算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	14	患者サポート体制充実加算	病院	1ヶ月間の対象月の	○		患者サポート体制充実加算の算定 ○あり ○なし ○該当せず（特別入院基本料） (患者サポート体制充実加算の算定を算定「あり」の場合) 重症患者初期支援充実加算の算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	15	褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定割合	病棟	対象月の1ヶ月間	○（届出のみ）	褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定割合（ ）％ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定割合＝A÷B×100 A：褥瘡ハイリスク患者ケア加算が算定された患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	褥瘡ハイリスク患者ケア加算の届出 ○あり ○なし ○該当せず (対象病院：急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、結核病棟入院基本料、精神病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般・結核・精神）、専門病院入院基本料、障害者施設等入院基本料 等) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算が算定された患者数（実人数）（ ）人
診療報酬の算定状況	16	呼吸ケアチーム加算の算定割合	病棟	対象月の1ヶ月間	○（届出のみ）	呼吸ケアチーム加算算定割合（ ）％ 呼吸ケアチーム加算算定割合＝A÷B×100 A：呼吸ケアチーム加算が1回でも算定された患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	呼吸ケアチーム加算の届出 ○あり ○なし ○該当せず (対象病院：急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、特定機能病院入院基本料（一般）、専門病院入院基本料 等) 「呼吸ケアチーム加算」が1回でも算定された患者数（実人数）（ ）人
診療報酬の算定状況	17	術後疼痛管理チーム加算	病院	1ヶ月間の対象月の	○		術後疼痛管理チーム加算の算定 ○あり ○なし ○該当せず
診療報酬の算定状況	18	摂食嚥下機能回復体制加算（摂食機能療法）の算定割合	病院・病棟	対象月の1ヶ月間	○（算定された患者数は除く）	摂食嚥下機能回復体制加算算定割合（ ）％ 摂食嚥下機能回復体制加算算定割合＝A÷B×100 A：摂食嚥下機能回復体制加算1～3が1回でも算定された患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	【病院】 経口摂取回復率 （ ）％ 【病棟】 摂食嚥下機能回復体制 加算（摂食機能療法）の届出 ○摂食嚥下機能回復体制加算1 ○摂食嚥下機能回復体制加算2 ○摂食嚥下機能回復体制加算3 ○なし ○該当せず 「摂食嚥下機能回復体制 加算1～3」が1回でも算定された患者数（実人数）（ ）人
診療報酬の算定状況	19	病棟薬剤業務実施加算	病院・病棟	対象月の1ヶ月間	○		【病院】 病棟薬剤業務実施加算1の算定 (対象病院：急性期一般入院基本料、地域一般入院基本料、療養病棟入院基本料、結核病棟入院基本料、精神病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料、専門病院入院基本料、地域包括医療病棟入院料、小児入院医療管理料) ○あり ○なし ○該当せず 【病棟】 (対象病棟：病棟薬剤業務実施加算1の届出「あり」の病院で、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料、総合周産期特定集中治療室管理料) 病棟薬剤業務実施加算2の算定 ○あり ○なし ○該当せず

[illegible]

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
報酬の状況	20	支援加算	病棟	月の間の			排尿自立支援加算が算定された患者数（実人数）（ ）人
診療報酬の算定状況	24	重症患者対応体制強化加算	病棟	1ヶ月間の対象月の	○		重症患者対応体制強化加算の算定 ○あり ○なし ○該当せず
診療報酬の算定状況	25	特定集中治療室遠隔支援加算	病院	1ヶ月間の対象月の	○		特定集中治療室遠隔支援加算の算定 □あり ○なし
診療報酬の算定状況	26	養育支援体制加算	病院	1ヶ月間の対象月の	○		養育支援体制加算の算定 ○あり ○なし ○該当せず (対象病院：小児入院医療管理料)
診療報酬の算定状況	27	外来に関する診療報酬	病院	対象月の1ヶ月間	○		在宅療養指導料の算定 ○あり ○なし 糖尿病合併症管理料の算定 ○あり ○なし 外来緩和ケア管理料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 小児加算の算定 ○あり ○なし 外来排尿自立指導料の算定 ○あり ○なし 糖尿病透析予防指導管理料の算定 ○あり ○なし 腎代替療法指導管理料の算定 ○あり ○なし 慢性腎臓病透析予防指導管理料 ○あり ○なし 療養・就労両立支援指導料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 相談支援加算の算定 ○あり ○なし 乳腺炎重症化予防ケア・指導料の算定 ○あり ○なし ハイリスク妊産婦連携指導料1の算定 ○あり ○なし 生殖補助医療管理料1 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	28	がん患者指導管理料	病院	1ヶ月間の対象月の	○		がん患者指導管理料イの算定 ○あり ○なし がん患者指導管理料ロの算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	29	救急外来の診療報酬	病院	1ヶ月間の対象月の	○		院内トリアージ実施料の算定 ○あり ○なし 夜間休日救急搬送医学管理料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 救急搬送看護体制加算1の算定 ○あり ○なし 救急搬送看護体制加算2の算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	30	リンパ浮腫指導管理料	病院	1ヶ月間の対象月の	○		リンパ浮腫指導管理料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 看護師による実施 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	31	リンパ浮腫複合的治療料	病院	1ヶ月間の対象月の	○		リンパ浮腫複合的治療料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 専任の看護師の配置 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	32	退院時共同指導料2・精神科退院時共同指導料2	病棟	1ヶ月間の対象月の			退院時共同指導料2の算定 ○あり ○なし 精神科退院時共同指導料2の算定 ○あり ○なし
診療報酬の算定状況	33	退院前訪問指導料	病棟	1ヶ月間の対象月の			退院患者のうち、「退院前訪問指導料」が算定された患者数（実人数）（ ）人 訪問指導を実施した職員の職種 □医師 □看護師 □保健師 □理学療法士 □作業療法士 □その他
診療報酬の算定状況	34	退院後訪問指導料	病院	1ヶ月間の対象月の	○		退院後訪問指導料の算定 ○あり ○なし (「あり」の場合) 訪問看護同行加算の算定 ○あり ○なし

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
褥瘡ケアの取組み	2	褥瘡ケアに関する研修への年間延べ参加者の割合	病院・病棟	昨年度の1年間	○	褥瘡ケアに関する研修への年間延べ参加者割合（ ）% 褥瘡ケアに関する研修への年間延べ参加者割合＝$A \div B \times 100$ 【病院】 A：褥瘡ケアに関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病院の在籍看護職員数 【病棟】 A：褥瘡ケアに関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病棟の在籍看護職員数	【病院】 褥瘡ケアに関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数（管理職を含む看護職員）（ ）人 昨年度の病院の在籍看護職員数（管理職、退職した場合も人数に含む）（ ）人 【病棟】 褥瘡ケアに関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数（管理職を含む看護職員）（ ）人 昨年度の病棟の在籍看護職員数（管理職、病棟を異動、退職した場合も人数に含む）（ ）人
褥瘡ケアの取組み	3	褥瘡対策の実施内容	病棟	対象月の1ヶ月間	○（実施頻度以外）		褥瘡対策チーム（委員会等含む）の設置 ○あり ○なし （「あり」の場合） メンバー、及び褥瘡対策チームとの活動に参加したメンバーの職種 □医師（主治医・担当医） □医師（皮膚科・形成外科） □皮膚・排泄ケア認定看護師 □病棟看護師（リンクナースなど） □病棟受け持ち看護師 □管理栄養士、栄養士 □リハビリ職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士） □薬剤師 □検査技師 □臨床工学技士 □退院支援部門（退院支援看護師、ソーシャルワーカー等） □事務職員 □その他（職種： ） 褥瘡対策チーム：病棟でのカンファレンス実施頻度 月（ ）回 ○該当患者なし 褥瘡対策チーム：病棟ラウンド（患者訪問）実施頻度 月（ ）回 ○該当患者なし （院内に皮膚・排泄ケア認定看護師がいる場合） 皮膚・排泄ケア認定看護師へのコンサルテーション ○あり ○なし ○該当患者なし （「あり」の場合） コンサルテーションを依頼した患者数（実人数） 月（ ）人
褥瘡ケアの取組	4	褥瘡に関する危険因子の評価の実施割合	病棟	対象月の1ヶ月間		褥瘡に関する危険因子の評価の実施割合（ ）% 褥瘡に関する危険因子の評価の実施割合＝$A \div B \times 100$ A：1ヶ月間に褥瘡に関する危険因子の評価を実施した患者数（実人数） B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	1ヶ月間に褥瘡に関する危険因子の評価を実施した患者数（ ）人
褥瘡ケアの取組み	5	褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者の割合	病棟	対象月の1ヶ月間		褥瘡に関する危険因子を有する患者の割合（ ）% 既に褥瘡を有していた患者の割合（ ）% 入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者の割合（ ）% 先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者の割合（ ）% 褥瘡に関する危険因子を有する患者の割合＝$A \div D \times 100$ 既に褥瘡を有していた患者の割合＝$(B + C) \div D \times 100$ 入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者の割合＝$B \div D \times 100$ 先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者の割合＝$C \div D \times 100$ A：1ヶ月間に褥瘡に関する危険因子を有する患者数（実人数） B：入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者数（実人数） C：先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者数（実人数） D：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	1ヶ月間に褥瘡に関する危険因子を有する患者数（実人数）（ ）人 1ヶ月間に既に褥瘡を有していた患者数（実人数）（ ）人 （内訳）入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者数（ ）人 先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者数（ ）人 褥瘡リスクアセスメントスケールの使用 ○あり ○なし （「あり」の場合） □ブレイデンスケール □OHスケール □K式スケール □入院基本料の届出における「褥瘡対策の基準」の中の「危険因子の評価」 □その他（ ）
褥瘡ケアの取組み	6	褥瘡リスクがある患者の体圧分散用具の使用割合	病棟	対象月の1ヶ月間		褥瘡リスクがある患者における体圧分散用具の使用割合（ ）% 褥瘡リスクがある患者における体圧分散用具の使用割合＝$A \div B \times 100$ A：体圧分散用具が使用された「褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数」（実人数） B：褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数（実人数）	1ヶ月間に体圧分散用具が使用された、「褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数」（ ）人 備品の不足により、必要な患者に体圧分散用具を使用できないことが ○常にある ○時々ある ○ほとんどない ○全くない

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
褥瘡ケアの取組み	7	骨突出部の体圧測定を実施した割合	病棟	対象月の1ヶ月間		骨突出部の体圧測定の実施割合 () % 骨突出部の体圧測定の実施割合 ＝A÷B×100 A：骨突出部の体圧測定が実施された、「褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数」(実人数) B：褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数(実人数)	1ヶ月間に骨突出部の体圧測定が実施された、「褥瘡に関する危険因子を有する、あるいは既に褥瘡を有していた患者数」() 人 備品の不足により、必要な患者の骨突出部の体圧測定を行えないことが ○常にある ○時々ある ○ほとんどない ○全くない
褥瘡ケアの取組み	8	褥瘡推定発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		褥瘡推定発生率 () % d2以上の褥瘡推定発生率 () % 褥瘡推定発生率＝A÷B×100 A：1ヶ月間で新たに褥瘡を生じた患者数(DSIGN-R®分類別人数の合計) B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数	DESIGN-R®分類別、新たに褥瘡を生じた患者数 d1 () 人 d2 () 人 D3 () 人 D4 () 人 D5 () 人 DTI () 人 U () 人
褥瘡ケアの取組み	9	新規発生した褥瘡の改善率	病棟	対象月の1ヶ月間		新規発生した褥瘡の改善率 () % 新規発生した褥瘡の改善率＝A÷B×100 A：1週間前の評価から改善した患者数(実人数) B：病棟で新たに褥瘡が生じた患者のうち、退院(転出)または月末時点から1週間前の評価がある患者数(実人数)	病棟で新たに褥瘡が生じた患者のうち、退院(転出)または月末時点から1週間前の評価がある患者数 () 人 1週間前の評価から改善した患者数(実人数) () 人
褥瘡ケアの取組み	10	既に有していた褥瘡の改善率	病棟	対象月の1ヶ月間		既に有していた褥瘡の改善率 () % 入院時・転入時に既に有していた褥瘡の改善率 () % 先月以前に自病棟で発生した褥瘡の改善率 () % 既に有していた褥瘡の改善率 ＝(A＋C)÷(B＋D)×100 入院時・転入時に既に有していた褥瘡の改善率＝A÷B×100 先月以前に自病棟で発生した褥瘡の改善率＝C÷D×100 A：入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価から改善した患者数(実人数) B：入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価がある患者数(実人数) C：先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価から改善した患者数(実人数) D：先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価がある患者数(実人数)	既に褥瘡を有していた患者のうち、退院(転出)または月末時点から1週間前の評価がある患者数 () 人 (内訳) 入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価がある患者数 () 人 先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価がある患者数 () 人 既に褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価から改善した患者数 () 人 (内訳) 入院時・転入時に既に褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価から改善した患者数 () 人 先月以前に自病棟で発生した褥瘡を有していた患者のうち、1週間前の評価から改善した患者数 () 人
感染対策の取組み	1	医療関連感染対策サーベイランス事業への参加	病院	昨年度の1年間	○		医療関連感染対策サーベイランス事業への参加 JANIS ○あり ○なし ⇒(「あり」の場合) □検査部門 □NICU部門 □ICU部門 □SSI部門 □全入院患者部門 JHAIS ○あり ○なし ⇒(「あり」の場合) □SSI □CLABSI □CAUTI □VAP/VAE その他 () ○あり ○なし ⇒「あり」の場合 □SSI □CLABSI □CAUTI □VAP/VAE
感染対策の取組み	2	感染防止マニュアルの周知徹底・感染防止対策のモニタリング	病棟	昨年度の1年間	○		感染防止マニュアルの周知徹底に関する確認 確認の有無 ○あり ○なし 確認方法 □直接観察 □聞き取り □自記式チェック 実施回数 () 回／年 感染防止対策のモニタリングの実施 ○あり ○なし (「あり」の場合：実施頻度) □手洗いの実施状況に関する観察調査など () 回／年 □手指消毒用の薬液の使用量確認など () 回／年 □マスクや手袋の使用状況を把握(使用量の確認など) () 回／年 □ガウンテクニック等に関する確認など () 回／年 □感染性廃棄物の分別状況の確認 () 回／年 □経路別予防策の実施状況の確認 () 回／年 □その他 ()

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
感染対策の取組み	3	医療関連感染防止に関する総研修時間	病院	昨年度の1年間	○	感染防止に関する年間の総研修時間 () 分 感染防止に関する年間の総研修時間 ＝ A × B ÷ C A：対面式による研修の年間実施回数 B：一回あたりの平均時間数(分) C：DVDやE-Learningによる研修時間(分)	医療関連感染防止に関する研修の実施 ○あり ○なし 研修方法 □対面式 □DVDやE-Learning 昨年度の実施頻度 対面式による研修の年間実施回数 () 回/年 一回あたりの平均時間数 () 分/回 DVDやE-Learningによる研修時間 () 分 臨床経験年数やラダーレベル等に合わせた研修の実施有無 ○あり ○なし
感染対策の取組み	4	医療関連感染防止対策に関する研修への年間延べ参加者の割合	病院・病棟	昨年度の1年間	○	医療関連感染防止対策に関する研修への年間延べ参加者割合 () % 医療関連感染防止対策に関する研修への年間延べ参加者割合＝ A ÷ B × 100 【病院】 A：感染に関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病院の在籍看護職員数 【病棟】 A：感染に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の当該病棟の在籍看護職員数	【病院】 感染に関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 (管理職を含む看護職員) () 人 昨年度の病院の在籍看護職員数 (管理職、退職した場合も人数に含む) () 人 【病棟】 感染に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 (管理職を含む看護職員) () 人 昨年度の病棟の在籍看護職員数 (管理職、病棟を異動、退職した場合も人数に含む) () 人
感染対策の取組み	5	中心静脈カテーテル関連血流感染 (CLABSI) 発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		中心静脈カテーテル関連血流感染 (CLABSI) 発生率 () % 中心静脈カテーテル使用比 () 中心静脈カテーテル関連血流感染 (CLABSI) 発生率＝ A ÷ B × 1000 (%) 中心静脈カテーテル使用比＝ B ÷ C A：1ヶ月間に発生した中心静脈カテーテル関連血流感染件数 B：中心静脈カテーテルを使用していた全患者の、1ヶ月間の中心静脈カテーテル総使用日数 C：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	中心静脈カテーテル関連血流感染発生件数のデータ収集を実施していますか ○実施している ○実施していない (「実施している」場合) 感染の判定に用いた基準 ○JANIS ○JHAIS/CDC 1ヶ月間に発生した中心静脈カテーテル関連血流感染件数 () 件 中心静脈カテーテルを使用していた全患者の、1ヶ月間の中心静脈カテーテルの総使用日数 () 日
感染対策の取組み	6	カテーテル関連の尿路感染 (CAUTI) 発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		カテーテル関連の尿路感染 (CAUTI) 発生率 () % 尿道留置カテーテル使用比 () カテーテル関連の尿路感染 (CAUTI) 発生率＝ A ÷ B × 1000 (%) 尿道留置カテーテル使用比＝ B ÷ C A：1ヶ月間に発生したカテーテル関連の尿路感染件数 B：尿道留置カテーテルを使用していた全患者の、1ヶ月間の尿道カテーテルの総使用日数 C：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	カテーテル関連の尿路感染発生件数のデータ収集を実施していますか ○実施している ○実施していない (「実施している」場合) 感染の判定に用いた基準 ○JANIS ○JHAIS/CDC 1ヶ月間に発生したカテーテル関連の尿路感染件数 () 件 尿道留置カテーテルを使用していた全患者の、1ヶ月間の尿道カテーテルの総使用日数 () 日
感染対策の取組み	7	人工呼吸器関連の肺炎 (VAP) 発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		人工呼吸器関連の肺炎 (VAP) 発生率 () % 人工呼吸器使用比 () 人工呼吸器関連の肺炎 (VAP) 発生率＝ A ÷ B × 1000 (%) 人工呼吸器使用比＝ B ÷ C A：1ヶ月間に発生した人工呼吸器関連の肺炎件数 B：人工呼吸器を使用していた全患者の、1ヶ月間の呼吸器総使用日数 C：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	人工呼吸器関連の肺炎 (VAP) 発生件数のデータ収集を実施していますか ○実施している ○実施していない (「実施している」場合) 感染の判定に用いた基準 ○JANIS ○JHAIS/CDC 1ヶ月間に発生した呼吸器関連の肺炎件数 () 件 人工呼吸器を使用していた全患者の、1ヶ月間の呼吸器総使用日数 () 日
感染対策の取組み	8	尿道カテーテル留置率・抜去率	病棟	対象月の1ヶ月間・対象月の1日(ついたち)		1日(ついたち)0時時点の尿道カテーテル留置率 () % 1日(ついたち)0時時点の尿道カテーテル留置率＝ A ÷ B × 100 A：1日(ついたち)0時時点に尿道留置カテーテルを使用していた患者数(実人数) B：1日(ついたち)0時時点に在棟していた患者数(実人数) 尿道留置カテーテル抜去率 () % 尿道留置カテーテル抜去率＝ C ÷ A × 100 C：退院時、または月末時点までに尿道留置カテーテルを抜去した患者数(実人数) A：1日(ついたち)0時時点に尿道留置カテーテルを使用していた患者数(実人数)	①1日(ついたち)0時時点に在棟していた患者数(実人数) () 人 ② ①のうち、1日(ついたち)0時時点に尿道留置カテーテルを使用していた患者数(実人数) () 人 ③ ②のうち、退院時、または月末時点までに尿道留置カテーテルを抜去した患者数(実人数) () 人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
転倒・転落防止の取組み	1	転倒・転落予防ケアに関する総研修時間	病院	昨年度の1年間	○	転倒・転落予防ケアに関する年間の総研修時間 () 分 転倒・転落予防ケアに関する年間の総研修時間＝A×B＋C A：年間の実施回数 B：一回あたりの平均時間数(分) C：DVDやE-Learningによる研修時間(分)	転倒・転落予防ケアに関する研修の実施 ○あり ○なし 研修方法 □対面式 □DVDやE-Learning 昨年度の実施頻度 対面式による研修の年間実施回数 () 回/年 一回あたりの平均時間数 () 分/回 DVDやE-Learningによる研修時間 () 分 臨床経験年数やラダーレベル等に合わせた研修の実施有無 ○あり ○なし
転倒・転落防止の取組み	2	転倒・転落予防に関する研修への年間延べ参加者の割合	病院・病棟	昨年度の1年間	○	転倒・転落予防ケアに関する研修の年間延べ参加者割合 () % 転倒・転落予防に関する研修の年間延べ参加者割合＝A÷B×100 【病院】 A：転倒・転落予防ケアに関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病院の在籍看護職員数 【病棟】 A：転倒・転落予防ケアに関する研修への当該病棟からの昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の当該病棟の在籍看護職員数	【病院】 転倒・転落予防ケアに関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 (管理職を含む看護職員) () 人 昨年度の病院の在籍看護職員数 (管理職、退職した場合も人数に含む) () 人 【病棟】 転倒・転落予防ケアに関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 (管理職を含む看護職員) () 人 昨年度の病棟の在籍看護職員数 (管理職、病棟を異動、退職した場合も人数に含む) () 人
転倒の取組み・転落防止	3	転倒・転落防止のための備品	病棟	1対象月の月間	○		転倒・転落防止のための備品の使用基準の有無 ○あり ○なし 備品の不足により、必要な患者の転倒・転落予防策がとれないことが ○常にある ○時々ある ○ほとんどない ○全くない
転倒・転落防止の取組み	4	転倒・転落に関する患者・家族教育	病棟	対象月の1ヶ月間	○		転倒・転落に関する患者・家族教育の実施 ○全患者に実施 ○一部の患者に実施 ○実施なし (「あり」の場合) 退院後の生活を見据えて、情報収集をした上での患者・家族教育の実施 ○全患者に実施 ○一部の患者に実施 ○実施なし (退院後の生活を見据えて、情報収集をした上での患者・家族教育「全患者に実施」または「一部の患者に実施」の場合) 実施した職種 □看護職員 □リハビリ職種 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)
転倒・転落防止の取組み	5	入院患者の転倒・転落発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		入院患者の転倒発生率 () % 入院患者の転倒発生率＝A÷B×1000 (%) A：入院患者に発生した転倒の件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 入院患者の転落発生率 () % 入院患者の転落発生率＝A÷B×1000 (%) A：入院患者に発生した転落の件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 ※転倒・転落の損傷のレベル別発生率が、自動計算されます。 入院患者の転倒・転落発生率 () % 入院患者の転倒・転落発生率＝A÷B×1000 (%) A：入院患者に発生した転倒・転落の件数 (レベル1～5の計) B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	○個別に入力 転倒：1ヶ月間に発生した損傷のレベル別の転倒件数 レベル1 () 件 レベル2 () 件 レベル3 () 件 レベル4 () 件 レベル5 () 件 入院患者の転倒件数の合計(レベル1～5の計) () 件 転落：1ヶ月間に発生した損傷のレベル別の転落件数 レベル1 () 件 レベル2 () 件 レベル3 () 件 レベル4 () 件 レベル5 () 件 入院患者の転落件数の合計(レベル1～5の計) () 件 ○合計で入力 1ヶ月間に発生した転倒・転落件数の合計 () 件 転倒・転落による骨折件数 () 件 転倒・転落による骨折件数のうち、大腿骨骨折の件数 () 件

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
転倒・転落防止の取組み	6	入院患者の転倒・転落による負傷発生率	病棟	対象月の1ヶ月間	入力なし	入院患者の転倒によるレベル2以上+G136 入院患者の転倒によるレベル3以上の負傷発生率 () % 入院患者の転落によるレベル2以上の負傷発生率 () % 入院患者の転落によるレベル3以上の負傷発生率 () % 入院患者の転倒・転落によるレベル2以上の負傷発生率 () % 入院患者の転倒・転落によるレベル3以上の負傷発生率 () % 入院患者の転倒・転落による骨折発生率 () % 入院患者の転倒・転落による大腿骨骨折発生率 () % 入院患者の転倒・転落による負傷発生率＝A÷B×1000(%) A：入院患者に発生した転倒及び転落による負傷件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 ※レベル別に自動計算されます。 入院患者の転倒・転落による（大腿骨）骨折発生率＝A÷B×1000(%) A：入院患者に発生した転倒及び転落による（大腿骨）骨折件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	※ここでの値は、自動計算されます。入力の必要はありません。
医療安全の取組み	1	医療安全管理者養成研修修了者の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	医療安全管理者養成研修修了者の割合 () % 医療安全管理者養成研修修了者の割合＝A÷B×100 A：医療安全管理者養成研修を修了している看護職員 B：病院の看護職員数（管理職を含む・実人数）	医療安全管理者養成研修を修了している看護職員（管理職を含む） () 人
医療安全の取組み	2	安全な与薬に関する総研修時間	病院	昨年度の1年間	○	安全な与薬に関する年間の総研修時間 () 分 安全な与薬に関する年間の総研修時間＝A×B+C A：対面式による研修の年間実施回数 B：一回あたりの平均時間数(分) C：DVDやE-Learningによる研修時間(分)	安全な与薬に関する研修の実施 ○あり ○なし 研修方法 □対面式 □DVDやE-Learning 昨年度の実施頻度 対面式による研修の年間実施回数 () 回/年 一回あたりの平均時間数 () 分/回 DVDやE-Learningによる研修時間 () 分 臨床経験年数やラダーレベル等に合わせた研修の実施有無 ○あり ○なし
医療安全の取組み	3	安全な与薬に関する研修への年間延べ参加者の割合	病院・病棟	昨年度の1年間	○	安全な与薬に関する研修への年間延べ参加者割合 () % 安全な与薬に関する研修への年間延べ参加者割合＝A÷B×100 【病院】 A：安全な与薬に関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病院の在籍看護職員数 【病棟】 A：安全な与薬に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病棟の在籍看護職員数	【病院】 安全な与薬に関する研修への病院全体の昨年度の年間延べ参加者数（管理職を含む看護職員） () 人 昨年度の病院の在籍看護職員数（管理職、退職した場合も人数に含む） () 人 【病棟】 安全な与薬に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数（管理職を含む看護職員） () 人 昨年度の病棟の在籍看護職員数（管理職、病棟を異動、退職した場合も人数に含む） () 人
医療安全の取組み	4	安全な与薬に関する患者・家族教育	病棟	対象月の1ヶ月間	○		安全な与薬に関する患者・家族教育の実施 ○全患者に実施 ○一部の患者に実施 ○実施なし （「あり」の場合） 退院後の生活を見据えて、情報収集をした上での患者・家族教育の実施 ○全患者に実施 ○一部の患者に実施 ○実施なし （退院後の生活を見据えて、情報収集をした上での患者・家族教育「全患者に実施」または「一部の患者に実施」の場合） 実施した職種 □看護職員 □薬剤師

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
医療安全の取組み	5	誤薬発生率	病棟	対象月の1ヶ月間		誤薬発生率 () % 誤薬発生率＝A÷B×1000(%) A：1ヶ月間に発生した影響度のレベル別の誤薬件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 * レベル別に自動計算されます。	1ヶ月間に発生した影響度のレベル別の誤薬件数 レベル1 () 件 レベル2 () 件 レベル3 () 件 (内訳) レベル3a () 件 レベル3b () 件 レベル4 () 件 (内訳) レベル4a () 件 レベル4b () 件 レベル5 () 件 入院患者の誤薬発生件数(レベル1～5の計) () 件
医療安全の取組み	6	誤薬による障害発生率	病棟	1ヶ月間 対象月の1ヶ月間	入力なし	入院患者の誤薬によるレベル2以上の障害発生率 () % 入院患者の誤薬によるレベル3以上の障害発生率 () % 入院患者の誤薬によるレベル4以上の障害発生率 () % 誤薬による障害発生率＝A÷B×1000(%) A：入院患者の誤薬による障害発生件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 * レベル別に自動計算されます。	※ここでの値は、システム上で自動計算されます。入力の必要はありません。
医療安全の取組み	7	看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント報告件数	病院	対象月の1ヶ月間		看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント報告件数 () 件 各レベルの、看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント報告件数＝A÷B A：1ヶ月間に看護職が報告した、レベル別のインシデント・アクシデント件数 B：病院の看護職員数[管理職を含む・実人数] (病院・病棟の基礎情報13) * レベル別に、自動計算されます 看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント(レベル1～5の合計)報告件数＝C÷B 看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント(レベル2以上)報告件数＝C÷B 看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント(レベル3以上)報告件数＝C÷B 看護職員1人あたりのインシデント・アクシデント(レベル4以上)報告件数＝C÷B C：1ヶ月間に看護職が報告したインシデント・アクシデントの件数 B：病院の看護職員数[管理職を含む・実人数] (病院・病棟の基礎情報13) * レベル別に、自動計算されます	1ヶ月間に看護職員が報告した、レベル別のインシデント・アクシデント件数 レベル1 () 件 レベル2 () 件 レベル3 () 件 (※自動計算且つ入力可能) (内訳) レベル3a () 件 レベル3b () 件 レベル4 () 件 (※自動計算且つ入力可能) (内訳) レベル4a () 件 レベル4b () 件 レベル5 () 件 1ヶ月間に看護職員が報告した、インシデント・アクシデント合計件数(レベル1～5の計) () 件 ※レベル別の件数が入力できない場合は合計での入力も可能です。
医療安全の取組み	8	暴力対策	病院・病棟	昨年度の1年間・対象月の1ヶ月間	○(暴力件数、労災申請件数以外)	暴力対策に関する研修への年間延べ参加者数の割合 () % 暴力対策に関する研修への年間延べ参加者数の割合＝A÷B×100 A：暴力対策に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数 B：昨年度の病棟の在籍看護要員数 患者・家族からの暴力件数割合 () % 患者・家族からの暴力件数割合＝A÷B×1000(%) A：患者・家族からの暴力件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 患者・家族からの暴力による労災申請件数割合 () % 患者・家族からの暴力による労災申請件数割合＝A÷B×1000(%) A：患者・家族からの暴力件数のうち、労災申請件数 B：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数	【病院】 暴力対策に関する研修の昨年度の年間実施回数 () 回/年 【病棟】 暴力対策に関する研修への当該病棟の昨年度の年間延べ参加者数(管理職を含む看護要員) () 人 昨年度の病棟の在籍看護要員数(管理職、病棟を異動、退職した場合も人数に含む) () 人 暴力に関するリスクアセスメントの実施 ○あり ○なし 1ヶ月間に発生した、患者・家族からの暴力の件数(身体的、言語的、性的) () 件 (内訳) 身体的暴力の件数 () 件 性的暴力の件数 () 件 1ヶ月間に発生した、患者・家族からの暴力による労災申請件数 () 件 【病院】 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)インストラクター () 人 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナー () 人
身体的拘束の状況	1	せん妄・認知症のスクリーニング	病院	対象月の1ヶ月間	○		せん妄・認知症のスクリーニング ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし (「すでに実施している」場合) せん妄・認知症のスクリーニングに関する教育・研修の実施 ○あり ○なし 対象部署と対象患者 □すべての病棟 ○すべての患者 ○せん妄・認知症があると予測される患者 □一部病棟 ○すべての患者 ○せん妄・認知症があると予測される患者

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
身体的拘束の状況	2	身体的拘束患者割合	病棟	対象月の1ヶ月間		1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者のうち、同意書を交わしている患者割合 () % 1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者のうち、同意書を交わしている患者割合＝A÷B×100 A：1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者のうち、同意書を交わしている患者数(実人数) B：1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者数(実人数) 身体的拘束患者割合 () % 身体的拘束患者割合＝B÷C×100 B：1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者数(実人数) C：1ヶ月間の病棟の入院実患者数 身体的拘束延べ患者日数割合 () % 身体的拘束延べ患者日数割合＝D÷E×100 D：1ヶ月間に身体的拘束を実施した延べ患者日数 E：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 患者1人あたりの、身体的拘束平均実施日数 () 日 身体的拘束平均実施日数＝D÷B	どのような患者に対して身体的拘束を行うのか、明確なルールがある(文書化されている) ○あり ○なし 1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者数(実人数) () 人 1ヶ月間に身体的拘束を実施した患者のうち、同意書を交わしている患者数(実人数) () 人 身体的拘束を実施した延べ患者日数 () 日
入退院支援・外来の状況	1	設置している看護外来	病院	対象月の1ヶ月間	○		看護外来の設置 ○あり ○なし (「あり」の場合) □ストーマ・スキンケア □糖尿病／フットケア □緩和ケア □がん看護相談 □HOT (在宅酸素療法) □生活習慣病 □禁煙 □助産師外来(健康診査) □助産師外来(保健指導) □母乳外来 □リンパ浮腫 □認知症・もの忘れ □排泄・排尿 □遺伝カウンセリング □移植 □喘息 □摂食・嚥下 □化学療法 □感染症(ウイルス疾患) □手術・周術期 □小児 □その他 ()
入退院支援・外来の状況	2	一般外来の看護体制	病院	対象月の1ヶ月間	○		【一般外来の看護体制】 ○外来一看護単位(病棟職員の外来配置なし) ○看護職員は1つの診療科に固定せず、各診療科をローテーションする ○ブロック化配置：看護職員は外科系・内科系・産婦人科系・小児科系などの、ブロックで固定する ○診療科ごとの配置：看護職員は一診療科に固定する ○病棟・外来一元管理(病棟と外来を一看護単位とし、看護職員は外来と病棟をローテーションする(「病棟・外来一元管理」を実施している場合) ○すべての病棟で実施 ○一部の病棟で実施 実施している診療科名称 □産科 □小児科 総合案内等での看護職員によるトリアージや患者対応 ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし
入退院支援・外来の状況	3	一般外来における看護	病院	対象月の1ヶ月間	○(意思決定支援の場への看護職員の同席患者数以外)	意思決定支援が必要な場への同席率 () % 意思決定支援が必要な場への同席率＝A÷B×100 A：同席した患者延べ人数 B：1ヶ月間の一般外来患者延べ人数 外来看護師1人あたりの同席患者延べ人数 () 人 外来看護師1人あたりの同席患者延べ人数＝A÷C A：同席した患者延べ人数 C：一般外来の看護職員数(常勤換算数)(外来6の看護師・准看護師・助産師・保健師の合計)	一般外来での、スクリーニング用のチェックシートやアセスメントツールの整備 認知症・せん妄 ○あり ○なし 産後うつ病 ○あり ○なし ハイリスク妊婦 ○あり ○なし 虐待 ○あり ○なし その他 () 一般外来での、意思決定支援 病名告知や、治療・手術の選択などに関する情報提供や説明、話し合いへの看護職員の同席 ○あり ○なし (「あり」の場合) 同席した患者延べ人数 () 人 一般外来での、多職種カンファレンスの実施 入退院カンファレンス ○あり ○なし (参加部門：□病棟 □入退院支援部門 □その他 ()) 外来患者支援カンファレンス ○あり ○なし 倫理カンファレンス ○あり ○なし その他 () 一般外来における受け持ち制の導入 ○あり ○なし

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
入退院支援・外来の状況	4	一般外来の1日平均患者数（年間・月間）	病院	昨年度の1年間	○	昨年度の1日平均一般外来患者数（ ）人 昨年度の1日平均一般外来患者数＝A÷B A：昨年度の年間一般外来患者延べ人数 B：昨年度の年間一般外来診療実日数	外来の診療科数（ ） 昨年度の年間一般外来患者延べ人数（ ）人 昨年度の年間一般外来診療実日数（ ）日 昨年度の救急搬送患者延べ人数（一般外来・救急外来問わず）（ ）人
				1ヶ月間の対象月間		1ヶ月間の1日平均一般外来患者数（ ）人 1ヶ月間の1日平均一般外来患者数＝C÷D C：1ヶ月間の一般外来患者延べ人数 D：1ヶ月間の一般外来診療実日数	1ヶ月間の一般外来患者延べ人数（ ）人 1ヶ月間の一般外来診療実日数（ ）日
入退院支援・外来の状況	5	一般外来の看護要員数（実人数）	病院	対象月の1ヶ月間	○	一般外来の看護師（実人数）（ ）人 一般外来の准看護師（実人数）（ ）人 一般外来の看護補助者（実人数）（ ）人 一般外来の助産師（実人数）（ ）人 一般外来の保健師（実人数）（ ）人 資格別の一般外来の看護要員数（管理職含む・実人数） ＝A＋B＋C A：正規雇用職員（フルタイム勤務正職員） B：正規雇用職員（短時間勤務正職員） C：非常勤職員	一般外来の看護師（実人数） ① 正規雇用職員：フルタイム勤務正職員（ ）人 ② 正規雇用職員：短時間勤務正職員（ ）人 ③ 上記①②以外の職員（非常勤）（ ）人 ④ 上記①②のうち管理職（ ）人 * その他、准看護師、看護補助者、助産師、保健師の職員数も入力します。
入退院支援・外来の状況	6	一般外来看護要員等の常勤換算数（非管理職）	病院	対象月の1ヶ月間	○	一般外来看護職員1人1日あたりの一般外来患者数（ ）人 一般外来看護職員1人1日あたりの一般外来患者数＝A÷B A：1ヶ月間の1日平均一般外来患者数（外来4） B：一般外来の看護職員数（常勤換算数）（外来6の看護師・准看護師・助産師・保健師の合計）	一般外来の看護師（非管理職・常勤換算）（ ）人 一般外来の准看護師（非管理職・常勤換算）（ ）人 一般外来の看護補助者（非管理職・常勤換算）（ ）人 一般外来の助産師（非管理職・常勤換算）（ ）人 一般外来の保健師（非管理職・常勤換算）（ ）人 一般外来の医師事務作業補助者（非管理職・常勤換算）（ ）人
入退院支援・外来の状況	7	一般外来への専門看護師、認定看護師の配置	病院	1ヶ月間の対象月間	○		一般外来勤務の専門看護師（常勤換算）（ ）人 一般外来勤務の認定看護師（常勤換算）（ ）人
入退院支援・外来の状況	8	救急外来の1日平均患者数（年間・月間）	病院	昨年度の1年間	○	昨年度の1日平均救急外来患者数（ ）人 昨年度の1日平均救急外来患者数＝A÷B A：昨年度の年間救急外来患者延べ人数 B：昨年度の年間救急外来診療実日数	* 救急外来部門を設置している施設のみ入力してください。 昨年度の年間救急外来患者延べ人数（ ）人 昨年度の年間救急外来診療実日数（ ）日
				1ヶ月間の対象月間		1ヶ月間の1日平均救急外来患者数（ ）人 1ヶ月間の1日平均救急外来患者数＝C÷D C：1ヶ月間の救急外来患者延べ人数 D：1ヶ月間の救急外来診療実日数	1ヶ月間の救急外来患者延べ人数（ ）人 1ヶ月間の救急外来診療実日数（ ）日
入退院支援・外来の状況	9	救急外来の看護職員数（実人数）	病院	対象月の1ヶ月間	○	救急患者の受入への対応に係る専任の看護師の配置人数（実人数）（ ）人 救急患者の受入への対応に係る専任の看護師の配置人数（実人数）（ ）人	* 救急外来部門を設置している施設のみ入力してください。 【救急外来の看護職員数（管理職含む）】 救急外来所属の看護職員数（実人数）（ ）人 うち、救急外来所属の急性・重症患者看護専門看護師（実人数）（ ）人 うち、救急外来所属の認定看護師（救急看護、集中ケア、クリティカルケア）（実人数）H180（ ）人 うち、救急外来所属の認定看護師（小児救急、小児プライマリケア）（実人数）（ ）人 救急外来以外に所属の看護職員数（実人数）（ ）人 【救急外来の勤務シフト上の看護職員数】 準夜勤帯（午後9時時点） 平日 救急外来に常駐する者（ ）人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算 されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
外来の状況		救急外来看護職員数	院	1ヶ月間	○	救急外来看護職員配置人数（実人数）＝A＋B A：救急外来所属の看護職員数（実人数） B：救急外来以外に所属の看護職員数（実人数）	患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 土日祝日 救急外来に常駐する者（ ）人 患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 深夜勤帯（午前2時時点） 平日 救急外来に常駐する者（ ）人 患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 土日祝日 救急外来に常駐する者（ ）人 患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 日勤帯（午前10時時点） 平日 救急外来に常駐する者（ ）人 患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 土日祝日 救急外来に常駐する者（ ）人 患者が来た時だけ救急外来で対応する予定の者（ ）人 救急外来でのトリアージ担当看護師の配置 ○あり ○なし
入退院支援・外来の状況	10	入退院支援部門の設置	病院	対象月の1ヶ月間	○		入退院支援部門の設置 ○すでに設置している ○検討中 ○設置予定なし (「すでに設置している」場合) 【配置職員数】 医師 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 看護職員 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 医療ソーシャルワーカー 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 社会福祉士（再掲） 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 薬剤師 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 管理栄養士、栄養士 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 事務員 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 その他 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 当該部門勤務の専門看護師（再掲） 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 当該部門勤務の認定看護師（再掲） 専従（実人数）（ ）人 専任（常勤換算）（ ）人 当該部門の管理職の職種 ○看護職員 ○看護職員以外
入退院支援・外来の状況	11	多職種での退院ケアカンファレンスの実施割合	病棟	対象月の1ヶ月間		多職種での退院ケアカンファレンス実施割合 （ ）％ 多職種での退院ケアカンファレンス実施割合 ＝A÷B×100 退院困難患者のうちカンファレンスをした割合 （ ）％ 退院困難患者のうちカンファレンスをした 割合＝A÷C×100 退院患者に占める退院困難患者数の割合 （ ）％ 割退院患者に占める退院困難患者数の割合 ＝C÷B×100 A：直近1ヶ月に医師・看護師・他の医療 従事者による退院に関するカンファ レンス記録のある退院患者数 B：直近1ヶ月間の退院患者数（実人数） C：直近1ヶ月間の退院患者のうち、退院 困難患者数（実人数）	直近1ヶ月間に退院した患者で、医師・看護師・他の医療従事者との 退院に関するカンファレンス記録がある退院困難患者数（ ）人 直近1ヶ月の退院患者数（実人数）（ ）人 うち退院困難患者数（実人数）（ ）人
入退院支援・外来の状況	12	多職種チームによる早期離床・リハビリテーション	病院	対象月の1ヶ月間	○		早期離床・リハビリテーションに関する多職種チームの院内設置 ○あり ○なし (「あり」の場合) 取組み実施部署 □特定集中治療室、救急救命入院料、ハイケアユニット入院医療管理料、 脳卒中ケアユニット入院医療管理料及び小児特定集中治療室管理料を 算定する病棟で実施 早期離床・リハビリテーション加算の算定 ○あり ○なし □すべての病棟で実施 □一部の病棟（上記の特定集中治療室等の病棟以外）で実施

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
入退院支援・外来の状況	13	ADLの変化	病棟	対象月の1ヶ月間		ADLが低下した患者割合（ ）% ADLが低下した患者割合 ＝ A ÷ B × 100 A：Bの患者のうち、退院時のADLが入院時と比較して低下した患者数（実人数） B：退院患者（死亡患者を除く）のうち、入院時及び退院時にADLを評価した患者数（実人数） ADLが改善した患者割合（ ）% ADLが改善した患者割合 ＝ C ÷ B × 100 C：Bの患者のうち、退院時のADLが入院時と比較して改善した患者数（実人数） B：退院患者（死亡患者を除く）のうち、入院時及び退院時にADLを評価した患者数（実人数）	ADLの評価に用いた基準 ○ADL区分 ○バーセルインデックス／ADLスコア（DPCデータ） ○日常生活機能評価票 ○FIM運動項目 退院患者（死亡患者を除く）のうち、入院時及び退院時にADLを評価した患者数（実人数）（ ）人 上記患者のうち、退院時のADLが入院時と比較して低下した患者数（実人数）（ ）人 退院時のADLが入院時と比較して改善した患者数（実人数）（ ）人
入退院支援・外来の状況	14	他施設への転院率と居宅復帰率、死亡率	病院・病棟	対象月の1ヶ月間		他施設への転院率（ ）% 居宅復帰率（ ）% 他施設への転院率＝ A ÷ B × 100 居宅復帰率＝ C ÷ B × 100 【他施設への転院率（分母に死亡退院の患者数を含まない）】【病院・病棟】 A：退院患者のうち、退院先が他の医療機関への転院や介護施設への入所であった患者数（③＋④） B：退院患者のうち、死亡退院患者を除いた患者数（①＋②＋③＋④） 【居宅復帰率（分母に死亡退院の患者数を含まない）】【病院・病棟】 C：退院患者のうち、自宅や自宅以外の居宅等へ退院した患者数（①＋②） B：退院患者のうち、死亡退院患者を除いた患者数（①＋②＋③＋④） 退院患者に占める死亡率 【病院】（ ）% 退院患者に占める死亡率（病院） ＝ D ÷ E × 100 D：死亡退院の患者数（⑤） E：退院患者数（①＋②＋③＋④＋⑤） 退院・退棟患者に占める死亡率【病棟】（ ）% 退院・退棟患者に占める死亡率（病棟） ＝ F ÷ G × 100 F：死亡退院の患者数（⑤） G：退院、及び退棟患者数（①＋②＋③＋④＋⑤＋⑥）	【病院】 ～患者の退院先別患者数～ ①自宅に退院した患者数（ ）人 ②自宅以外の居宅等に退院した患者数（ ）人 ③介護保険施設への退院患者数（ ）人 ④他の医療機関への転院患者数（ ）人 ⑤死亡退院の患者数（ ）人 ～診療報酬上の在宅復帰・病床機能連携率、在宅復帰率～ 在宅復帰・病床機能連携率（対象病院：急性期一般入院料1、7対1特定機能病院入院基本料（一般病棟）及び7対1専門病院入院基本料）（ ）% 在宅復帰率（地域包括ケア病棟入院料）（ ）% 在宅復帰率（回復期リハビリテーション病棟入院料）（ ）% 在宅復帰率（療養病棟入院基本料）（ ）% 【病棟】 ～患者の退院先と退棟先別患者数～ ①自宅に退院した患者数（ ）人 ②自宅以外の居宅等に退院した患者数（ ）人 ③介護保険施設への退院患者数（ ）人 ④他の医療機関への転院患者数（ ）人 ⑤死亡退院の患者数（ ）人 ⑥院内の他病棟へ移動した患者数（ ）人 ～診療報酬上の在宅復帰・病床機能連携率、在宅復帰率～ 在宅復帰・病床機能連携率（対象病棟：急性期一般入院料1、7対1特定機能病院入院基本料（一般病棟）及び7対1専門病院入院基本料）（ ）% 在宅復帰率（地域包括ケア病棟入院料）（ ）% 在宅復帰率（回復期リハビリテーション病棟入院料）（ ）% 在宅復帰率（療養病棟入院基本料）（ ）%
精神病床の状況	1	精神病床の病棟構造	病棟	1ヶ月間の対象月	○		○夜間外開放病棟 ○終日閉鎖病棟 ○その他
精神病床の状況	2	精神病床の職員配置（非管理職・実人数）	病棟	対象月の1か月間	○		【平日夜間（午前2時時点）における、病棟に勤務する資格別医療職者数（実人数）】 看護師（ ）人 准看護師（ ）人 看護補助者（ ）人 精神保健福祉士（ ）人 作業療法士（ ）人 【平日日勤（午前10時時点）における、病棟に勤務する資格別医療職者数（実人数）】 看護師（ ）人 准看護師（ ）人 看護補助者（ ）人 精神保健福祉士（ ）人 作業療法士（ ）人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
精神病床の状況	7	自己管理に向けたケア	病棟	対象月の1ヶ月間・対象月の1日(ついたち)		服薬の自己管理実施率 () % 服薬の自己管理実施率＝A ÷ B × 100 A：1日(ついたち)時点で、服薬を自己管理していた患者数(実人数) B：1日(ついたち)0時時点の在院患者のうち、1日(ついたち)の服薬指示が出ていた患者数(実人数) 服薬の自己管理への移行率 () % 服薬の自己管理への移行率＝C ÷ D × 100 C：退院時、または月末時点までに、1日でも服薬を自己管理した患者数(実人数) D：1日(ついたち)時点で、服薬を自己管理していなかった患者数(実人数) 代理行為の自己管理への移行率 () % 代理行為の自己管理への移行率＝E ÷ F × 100 E：退院時、または月末時点までに、1日でも自己管理した患者数(実人数) F：1日(ついたち)時点で、代理行為をしていた患者数(実人数)	【服薬管理】 服薬自己管理に関する看護ケアガイド等の有無 ○あり ○なし 1日(ついたち)0時時点の在院患者のうち、1日(ついたち)の服薬指示が出ていた患者数(実人数) () 人 ①1日(ついたち)時点で、服薬を自己管理していた患者数(実人数) () 人 ②1日(ついたち)時点で、服薬を自己管理していなかった患者数(実人数) () 人 ②の患者のうち、退院時または月末時点までに、1日でも服薬を自己管理した患者数(実人数) () 人 【代理行為】 1日(ついたち)時点で、代理行為をしていた患者数(実人数) () 人 上記患者のうち、退院時または月末時点までに、1日でも自己管理した患者数(実人数) () 人
精神病床の状況	8	行動制限	病棟	対象月の1ヶ月間		精神病床における身体的拘束患者割合 () % 精神病床における身体的拘束患者割合＝A ÷ B × 100 A：1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した患者数(実人数) B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数 精神病床における身体的拘束延べ患者日数割合 () % 精神病床における身体的拘束延べ患者日数割合＝C ÷ D × 100 C：1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した延べ患者日数 D：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 精神病床における患者1人あたりの、身体的拘束平均実施日数 () 日 精神病床における患者1人あたりの、身体的拘束平均実施日数＝C ÷ A C：1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した延べ患者日数 A：1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した患者数(実人数) 隔離患者割合 () % 隔離患者割合＝E ÷ B × 100 E：1ヶ月間に隔離を実施した患者数(実人数) B：1ヶ月間の病棟の入院実患者数 隔離延べ患者日数割合 () % 精神病床における隔離延べ患者日数割合＝F ÷ D × 100 F：1ヶ月間に隔離を実施した延べ患者日数(実人数) D：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数 *隔離延べ日数患者割合は、1日のうち12時間を超えて隔離を実施した延べ患者日数と、12時間以下の隔離を実施した延べ患者日数に分けて算出する 患者1人あたりの、隔離平均実施日数 () 日	【身体的拘束】 1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した患者数(実人数) () 人 1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した延べ患者日数 () 日 【隔離】 1ヶ月間に隔離を実施した患者数(実人数) () 人 1日のうち12時間を超えて隔離を実施した延べ患者日数 () 日 1日のうち12時間以下の隔離を実施した延べ患者日数 () 日

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
						患者1人あたりの、隔離平均実施日数＝F÷E F：1ヶ月間に隔離を実施した延べ患者日数（12時間超と12時間以下の合計） E：1ヶ月間に隔離を実施した患者数（実人数） 多職種との身体的拘束・隔離に係る、行動制限の最小化カンファレンス実施割合（ ）％ 多職種との身体的拘束・隔離に係る、行動制限の最小化カンファレンス実施割合＝G÷（C＋F）×100 G：身体的拘束・隔離に係る、行動制限の最小化カンファレンスに該当する患者延べ人数 C：1ヶ月間に精神病床において身体的拘束を実施した延べ患者日数 F：1ヶ月間に隔離を実施した延べ患者日数	
精神病床の状況	9	退院前訪問看護	病棟	対象月の1ヶ月間		退院前の訪問看護実施割合（ ）％ 退院前の訪問看護実施割合＝A÷B×100 A：退院患者のうち、退院前訪問看護を実施した患者数（実人数） B：退院患者のうち、自宅や自宅以外の居宅等に退院した患者数（入退院支援・外来の状況14 病棟 患者の退院先と退棟先別患者数の①と②の合計）	退院した患者のうち、自宅や居宅等に退院前訪問看護を実施した患者素（実人数）（ ）人
精神病床の状況	10	退院率・再入院率	病院	昨年度の1年間	○	入院後3ヶ月時点の退院率＝A÷B×100 A：昨年6月1ヶ月間に入院した患者のうち、昨年6月～8月に退院した患者数の合計（実人数） B：昨年6月1ヶ月間に入院した患者数（実人数） 入院後1年時点の退院率＝C÷B×100 C：昨年6月1ヶ月間に入院した患者のうち、昨年6月～当年5月に退院した患者数の合計（実人数） B：昨年6月1ヶ月間に入院した患者数（実人数）	【退院率】 入院後3ヶ月時点の退院率（ ）％ 入院後1年時点の退院率（ ）％
				対象月の1ヶ月間		退院後90日以内の再入院率（ ）％ 退院後90日以内の再入院率＝D÷E×100 D：Eの患者のうち、対象月の入院日からさかのぼって90日以内に自院の精神科病棟から退院した患者数（実人数） E：対象月の1ヶ月間に、精神科に入院した患者数（実人数）	【退院後90日以内の再入院率】 対象月の1ヶ月間に、精神科に入院した患者数（実人数）（ ）人 上記患者のうち、対象月の入院日からさかのぼって90日以内に自院の精神科病棟から退院した患者数（実人数）（ ）人
精神病床の状況	11	退院支援におけるクライシスプランの活用	病棟	対象月の1ヶ月間		クライシスプランの作成率（ ）％ クライシスプランの作成率＝A÷B×100 A：退院患者のうち、退院後支援に関する計画書に病状が悪化した場合の対処方針（クライシスプラン）を作成した患者数（実人数） B：退院患者のうち、自宅や自宅以外の居宅等に退院した患者数	1か月間の退院患者のうち、退院後支援に関する計画書に病状が悪化した場合の対処方針（クライシスプラン）を作成した患者数（実人数）（ ）人
産科病棟の状況	1	稼働病床数、在院患者延べ人数	病棟	対象月の1ヶ月間	○（稼働病床数のみ）		【稼働病床数】 産科病棟・産科混合病棟の稼働病床数（内訳①～③の計）（ ）床 （内訳）①MFICU病床数（ ）床 ②産科病床数（ ）床 ③産科以外の病床数（ ）床 【1ヶ月間の在院患者延べ人数】 産科病棟・産科混合病棟（内訳①～③の計）（ ）人 （内訳）①MFICU（ ）人 ②産科（ ）人 ③産科以外（ ）人

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
産科病棟の状況	2	看護要員の配置状況 (非管理職)	病棟	対象月の1ヶ月間	○ (病棟勤務者数のみ)	1ヶ月間に、母乳外来を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数 () 人 1ヶ月間に、母乳外来を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数=A+B A：1ヶ月間に、母乳外来を担当した、病棟所属の助産師延べ人数 B：1ヶ月間に、母乳外来を担当した、病棟所属の助産師以外の看護職員延べ人数 1ヶ月間に、集団指導による出産準備教室を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数 () 人 1ヶ月間に、集団指導による出産準備教室を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数=C+D C：1ヶ月間に、集団指導による出産準備教室を担当した、病棟所属の助産師延べ人数 D：1ヶ月間に、集団指導における出産準備教室を担当した、病棟所属の助産師以外の看護職員延べ人数	【平日夜間（午前2時時点）における、病棟に勤務する資格別看護要員数（実人数）】 助産師 () 人 助産師（宅直・オンコール） () 人 看護師 () 人 准看護師 () 人 看護補助者 () 人 【平日日勤（午前10時時点）における、病棟に勤務する資格別看護要員数（実人数）】 【病棟】 助産師 () 人 看護師 () 人 准看護師 () 人 看護補助者 () 人 【1ヶ月間の、助産師外来、母乳外来、集団指導による出産準備教室担当の看護職員延べ人数】 1ヶ月間に、助産師外来を担当した、病棟所属の助産師延べ人数 助産師 () 人 1ヶ月間に、母乳外来を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数 助産師 () 人、助産師以外の看護職員 () 人 1ヶ月間に、集団指導による出産準備教室を担当した、病棟所属の看護職員延べ人数 助産師 () 人、助産師以外の看護職員 () 人
産科病棟の状況	3	助産師に占めるアドバンス助産師の割合	病棟	対象月の1ヶ月間	○	助産師に占めるアドバンス助産師の割合 () % 助産師に占めるアドバンス助産師の割合=A÷B×100 A：アドバンス助産師数 (管理職を含む・実人数) B：病棟の看護職員数のうち、助産師数 (管理職を含む・実人数)	アドバンス助産師数 () 人
産科病棟の状況	4	妊産褥婦の情報	病棟	対象月の1ヶ月間		妊産褥婦の在院患者延べ人数に占める妊婦の割合 () % 妊産褥婦の在院患者延べ人数に占める妊婦の割合=A÷(A+B)×100 A：妊婦の在院患者延べ人数 B：産褥婦の在院患者延べ人数 妊産褥婦の在院患者実人数に占める「特定妊婦」の割合 () % 妊産褥婦の在院患者実人数に占める「特定妊婦」の割合=C÷D×100 C：特定妊婦の患者数（実人数） D：妊産褥婦の患者数（実人数） 妊産褥婦の在院患者実人数に占めるハイリスク妊娠管理加算の算定患者割合 () % 妊産褥婦の在院患者実人数に占めるハイリスク妊娠管理加算の算定患者割合=E÷D×100 E：ハイリスク妊娠管理加算を算定した患者数（実人数） D：妊産褥婦の患者数（実人数）	【妊産褥婦の実人数】 1ヶ月間の病棟の入院実患者数（患者情報2から自動入力） () 人 うち、妊産褥婦の患者数（実人数） () 人 うち、「特定妊婦」の患者数（実人数） () 人 ハイリスク妊娠管理加算を算定した患者数（実人数） () 人 【妊産褥婦の在院患者延べ人数】 1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数（患者情報1から自動入力） () 人 うち、妊婦の在院患者延べ人数 () 人 産褥婦の在院患者延べ人数 () 人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
産科病棟の状況	5	新生児数	病棟	対象月の1ヶ月間			1ヶ月間の新生児の入院実患者数（実人数）（ ）人 1ヶ月間に入院していた新生児の延べ人数（ ）人
産科病棟の状況	6	分娩件数と分娩状況	病棟	対象月の1ヶ月間		1ヶ月間の分娩件数（ ）件 1ヶ月間の分娩件数＝A＋B A：初産婦の分娩件数 B：経産婦の分娩件数 助産師1人あたりの1ヶ月間の分娩件数（ ）件 助産師1人あたりの1ヶ月間の分娩件数＝（A＋B）÷C A＋B：1ヶ月間の分娩件数 C：常勤換算助産師数 初産婦の分娩件数割合（ ）％ 初産婦の分娩件数割合＝A÷（A＋B）×100 A：初産婦の分娩件数 A＋B：1ヶ月間の分娩件数 1ヶ月間の帝王切開件数（ ）件 1ヶ月間の帝王切開件数＝D＋E D：予定帝王切開件数 E：緊急帝王切開件数 帝王切開率（ ）％ 帝王切開率＝（D＋E）÷（A＋B）×100 D＋E：1ヶ月間の帝王切開件数 A＋B：1ヶ月間の分娩件数 緊急帝王切開率（ ）％ 緊急帝王切開率＝E÷（D＋E）×100 E：1ヶ月間の緊急帝王切開件数 D＋E：1ヶ月間の帝王切開件数 ハイリスク分娩管理加算を算定した分娩件数割合（ ）％ ハイリスク分娩管理加算を算定した分娩件数割合＝F÷（A＋B）×100 F：ハイリスク分娩管理加算を算定した分娩件数 A＋B：1ヶ月間の分娩件数 妊産婦緊急搬送入院加算を算定した分娩件数割合（ ）％ 妊産婦緊急搬送入院加算を算定した分娩件数割合＝G÷（A＋B）×100 G：妊産婦緊急搬送入院加算を算定した分娩件数 A＋B：1ヶ月間の分娩件数 院内助産での助産師が直接介助した分娩件数割合（ ）％ 院内助産での助産師が直接介助した分娩件数割合＝H÷（A＋B）×100 H：助産師が直接介助した院内助産での分娩件数 A＋B：1ヶ月間の分娩件数	1ヶ月間の分娩件数（内訳） 初産婦の分娩件数（ ）件 経産婦の分娩件数（ ）件 1ヶ月間の帝王切開件数（内訳） 予定帝王切開件数（ ）件 緊急帝王切開件数（ ）件 1ヶ月間の経膈分娩件数（ ）件 うち、妊娠37週未満の早産の分娩件数（ ）件 妊娠42週0日以降の過期産の分娩件数（ ）件 －吸引分娩件数（ ）件 鉗子分娩件数（ ）件 薬剤、器具による陣痛誘発・陣痛促進を行った分娩件数（ ）件 無痛分娩への対応○あり○なし（ありの場合） 無痛分娩件数（ ）件 ハイリスク分娩管理加算を算定した分娩件数（ ）件 妊産婦緊急搬送入院加算を算定した分娩件数（ ）件 院内助産への対応○あり○なし（ありの場合） 助産師が直接介助した分娩件数（ ）件

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
産科病棟の状況	7	集団指導における出産準備教育	病棟	対象月の1ヶ月間		出産準備教室参加率（ ）% 出産準備教室参加率＝A÷B×100 A：1ヶ月間の分娩件数のうち、自院の出産準備教室に1回以上参加した褥婦数（実人数） B：1ヶ月間の分娩件数	集団指導における出産準備教室の開催方法 □対面 □オンライン開催 □オンデマンド配信 1ヶ月間の分娩件数のうち、自院の出産準備教室に1回以上参加した褥婦数（実人数）（ ）人
産科病棟の状況	8	バースプラン・バースレビューの支援	病棟	対象月の1ヶ月間		バースプラン作成率（ ）% バースプラン作成率＝A÷B×100 A：1ヶ月間の分娩件数のうち、バースプランを作成した褥婦数（実人数） B：1ヶ月間の分娩件数 バースレビュー実施率（ ）% バースレビュー実施率＝C÷B×100 C：1ヶ月間の分娩件数のうち、バースレビューを実施した褥婦数（実人数） B：1ヶ月間の分娩件数	1ヶ月間の分娩件数のうち、バースプランを作成した褥婦数（実人数）（ ）人 1ヶ月間の分娩件数のうち、バースレビューを実施した褥婦数（実人数）（ ）人
産科病棟の状況	9	新生児の出生状況	病棟	対象月の1ヶ月間		2500g未満の低出生体重児割合（ ）% 2500g未満の低出生体重児割合＝A÷B×100 A：2500g未満の低出生体重児（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数） 1000～1500g未満の極低出生体重児割合（ ）% 1000～1500g未満の極低出生体重児割合＝C÷B×100 C：1000～1500g未満の低出生体重児（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数） 1000g未満の超低出生体重児割合（ ）% 1000g未満の超低出生体重児割合＝D÷B×100 D：1000g未満の低出生体重児（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数） アプガースコア7点未満の新生児割合（ ）% アプガースコア7点未満の新生児割合＝E÷B×100 E：アプガースコア7点未満の新生児数（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数）	1ヶ月間に出生した新生児数（実人数）（ ）人 うち、2500g未満の低出生体重児数（実人数）（ ）人 うち1000～1500g未満の極低出生体重児数（実人数）（ ）人 1000g未満の超低出生体重児数（実人数）（ ）人 アプガースコア7点未満の新生児数（実人数）（ ）人
産科病棟の状況	10	母子のケア	病棟	対象月の1ヶ月間		早期の母乳育児支援実施率（ ）% 早期の母乳育児支援実施率＝A÷B×100 A：生後2時間以内に授乳を開始した新生児数（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数） 早期母子接触実施率（ ）% 早期母子接触実施率＝C÷B×100 C：母親の希望において早期母子接触を実施した新生児数（実人数） B：1ヶ月間に出生した新生児数（実人数）	1ヶ月間に出生した新生児のうち、生後2時間以内に授乳を開始した新生児数（実人数）（ ）人 「『早期母子接触』実施の留意点」に則ったうえで、各施設の実情に応じた「適応基準」「中基準」「実施方法」の作成有無 ○あり ○なし 1ヶ月間に出生した新生児のうち、母親の希望において早期母子接触を実施した新生児数（実人数）（ ）人

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
産科病棟の状況	11	外来での乳房ケア	病棟	対象月の1ヶ月間		1ヶ月間に、母乳外来を担当した看護職員延べ人数 () 人 1ヶ月間に、母乳外来を担当した看護職員延べ人数=A+B A：1ヶ月間に、母乳外来を担当した、助産師延べ数 B：1ヶ月間に、母乳外来を担当した、その他の看護職員延べ数 母乳外来での、乳腺炎重症化予防ケア・指導料算定割合 () % 母乳外来での、乳腺炎重症化予防ケア・指導料算定割合=A÷B×100 A：乳腺炎重症化予防ケア・指導料を算定した患者延べ人数 B：1ヶ月間に、乳房ケアを行った外来患者延べ人数	母乳外来の設置 ○あり ○なし 対象患者 □自院で分娩した患者 □他施設で分娩した患者 1ヶ月間に、看護職員による母乳外来を担当した看護職員延べ人数 助産師延べ人数 () 人、他の看護職員延べ人数 () 人 ① 1ヶ月間に、乳房ケアを行った外来患者延べ人数 () 人 ② ①のうち、乳腺炎重症化予防ケア・指導料を算定した患者延べ人数 () 人 ③ ②のうち、当該病院で分娩した患者延べ人数 () 人 ④ ②のうち、切開排膿した患者延べ人数 () 人 乳腺炎重症化予防ケア・指導料を算定した患者1人あたりの、平均ケア所要時間 () 分 自院で出産した母子における退院後1か月後（1ヵ月健診）の母乳率 () %
	12	流産・死産を経験した女性や家族へのグリーフケア	病棟	対象月の1ヶ月間			助産師または看護師による流産・死産を経験した女性や家族へのグリーフケアの実施 ○あり ○なし ○該当者なし
産科病棟の状況	13	産後ケアへの取り組み	病棟	対象月の1ヶ月間	○（短期入所型産後ケアの件数を除く）		自施設での産後ケア事業の実施内容 短期入所型 ○あり ○なし 通所型 ○あり ○なし 居宅訪問型 ○あり ○なし 自施設で短期入所型産後ケアを実施している場合 対象者の条件 □自院で出産した母子 □他院で出産した母子 短期入所型産後ケアの件数 () 件/月
産科病棟の状況	14	出産満足度	病棟	昨年度の1年間	○		昨年度の出産満足度調査の実施 ○あり ○なし
小児病棟の状況	1	小児が入院する病棟の稼働病床数	病棟	対象月の1ヶ月間	○		小児病棟・小児混合病棟の稼働病床数(内訳①～⑤の計) () 床 *①②③は、説明資料を参考にして、対象となる特定入院料を届け出ている病床数を入力してください。 (内訳) ①小児病床数 () 床 ②NICU病床数 () 床 ③GCU病床数 () 床 ④特定入院料等を届け出していない小児病床数 () 床 ⑤小児以外の病床数 () 床
小児病棟の状況	2	小児の在院患者延べ人数、平均在院日数	病棟	対象月の1ヶ月間		【小児の月間平均在院日数の計算式】 小児の月間平均在院日数=A÷B A：当該病棟における1ヶ月間の小児の在院患者延べ人数 B：（当該病棟における1ヶ月間の新入棟小児の患者数+当該病棟における1ヶ月間に転出した小児の患者数）÷2 在院患者延べ人数に占める小児の割合 () % 在院患者延べ人数に占める小児の割合=A÷C×100 A：小児の在院患者延べ人数 C：1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数（患者情報1）	1ヶ月間の病棟の在院患者延べ人数（患者情報1から自動入力） () 人 うち、小児の在院患者延べ人数 () 人 (特定入院料算定患者延べ人数) 小児入院医療管理料 () 人 新生児特定集中治療室管理料 () 人 新生児特定集中治療室重症児対応体制強化管理料 () 人 総合周産期特定集中治療室管理料 新生児 () 人 新生児治療回復室入院医療管理料 () 人 小児特定集中治療室管理料 () 人 障害者施設等入院基本料 () 人 児童・思春期精神科入院医療管理料 () 人 1ヶ月間の小児の月間平均在院日数 () 日

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
小児病棟の状況	3	小児の入院実患者数	病棟	対象月の1ヶ月間		在院日数が1年以上の小児の患者割合 () % 在院日数が1年以上の小児の患者割合 = A ÷ B × 100 A：在院日数が1年以上の小児の患者数 (実人数) B：1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数) 小児の人工呼吸器装着患者の割合 () % 小児の人工呼吸器装着患者の割合=C ÷ B × 100 C：小児の人工呼吸器装着患者数 B：1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数) 小児慢性特定疾病患者の割合 () % 小児慢性特定疾病患者の割合=D ÷ B × 100 D：小児慢性特定疾病患者数 B：1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数) 化学療法で入院している小児患者割合 () % 化学療法で入院している小児患者割合 =E ÷ B × 100 E：化学療法を受けている小児患者数 B：1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数) 移植で入院している小児患者割合 () % 移植で入院している小児患者割合= F ÷ B × 100 F：移植後の小児患者数 B：1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数)	1ヶ月間の病棟の入院実患者数 (患者情報2から自動入力) () 人 うち、1ヶ月間の小児の入院実患者数 (実人数) () 人 うち、在院日数が1年以上の小児の患者数 (実人数) () 人 うち、小児の人工呼吸器装着患者数 (実人数) () 人 小児慢性特定疾病患者数 (実人数) () 人 化学療法で入院している小児患者数 (実人数) () 人 移植で入院しているの小児患者数 (実人数) () 人
小児病棟の状況	4	小児の年齢階層別患者の割合	病棟	対象月の1ヶ月間		小児の年齢階層別患者の割合 () % 小児の年齢階層別患者の割合=A ÷ B × 100 A：小児の年齢階層別の患者数 (実人数) B：小児の年齢階層別の患者数の合計 (実人数) ※年齢階層別患者割合が、自動計算されます。	1ヶ月未満の患者数 () 人 1ヶ月～1歳未満の患者数 () 人 1～3歳の患者数 () 人 4～6歳の患者数 () 人 7～12歳の患者数 () 人 13～15歳の患者数 () 人 16～19歳の患者数 () 人 20歳以上の患者数 () 人
小児病棟の状況	5	小児の在宅移行支援	病棟	対象月の1ヶ月間	○		小児の在宅移行支援に関する多職種チームの院内設置 (委員会等含む) ○あり ○なし 小児用の在宅移行支援パスやマニュアルの導入 ○すでに実施している ○検討中 ○実施予定なし
周術期看護の状況	1	手術室の基本情報	病院	対象月の1ヶ月間	○ (手術室稼働実日数・手術患者在室)	手術室の月間平均稼働率 () % 手術室の月間平均稼働率= A ÷ (B × C × D) × 100 A：1か月間の手術患者の患者在室時間の合計 B：1日の手術室の定時稼働時間数 (9時間) C：1ヶ月間の手術室稼働実日数 D：稼働手術室数	稼働手術室数 () 室 手術室の月間平均稼働率 (自動計算) % 1ヶ月間の手術室稼働実日数 () 日 1ヶ月間の手術患者在室時間の合計 () 時間/月 手術室の看護体制 ○手術室のみで1看護単位 ○手術室と回復室で1看護単位 ○手術室と中央滅菌材料室で1看護単位 ○手術室と中央滅菌材料室と回復室で1看護単位 ○手術室と上記以外の部門で1看護単位 () 手術を行う診療科 □外科 □呼吸器外科 □心臓血管外科 □乳腺外科 □気管食道外科 □消化器外科 □泌尿器科 □肛門科 □神経科

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
ル					時間の合計以外)		☐ 整形外科 ☐ 美容外科 ☐ 産科 ☐ 麻酔科 ☐ 内科 ☐ 消化器内科 ☐ 糖尿病内科 ☐ リウマチ科 ☐ その他の診療科 ☐ 形成外科 ☐ 眼科 ☐ 婦人科 ☐ 救急科 ☐ 呼吸器内科 ☐ 腎臓内科 ☐ 血液内科 ☐ 小児科 ☐ 皮膚科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ 小児外科 ☐ 小児歯科 ☐ 歯科・歯科口腔外科 ☐ 循環器内科 ☐ 神経内科 ☐ アレルギー科 ☐ 精神科 ☐ 心療内科

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
周術期看護の状況	5	手術看護の経験年数別の看護職員の割合	病院	対象月の1ヶ月間	○	手術看護の経験年数別の看護職員割合 () % 手術看護の経験年数別の看護職員割合 = A ÷ B × 100 手術看護の経験年数3年未満の看護職員割合 () % 手術看護の経験年数3年未満の看護職員割合 = A ÷ B × 100 手術看護の経験年数10年以上の看護職員割合 () % 手術看護の経験年数10年以上の看護職員割合 = A ÷ B × 100 A：手術看護の経験年数別の看護職員数 (管理職を含む・実人数)	1年未満 () 人 1年以上3年未満 () 人 3年以上5年未満 () 人 5年以上10年未満 () 人 10年以上15年未満 () 人 15年以上20年未満 () 人 20年以上25年未満 () 人 25年以上 () 人 不明 () 人
周術期看護の状況	6	勤務形態別の手術室看護職員配置数	病院	対象月の1ヶ月間	○		☐ 交代制勤務 (勤務時間が規定されている交代制) ☐ 当直制 (施設内で待機し、必要時に勤務につく) ☐ オンコール体制 (緊急時対応可能な範囲に待機し、呼び出しに応じて勤務につく) 1日あたりの日勤(午前10時時点)に勤務する看護職員数(実人数) 予定手術稼働日 () 人 それ以外の日 () 人 1日あたりの夜勤(午前2時時点)に勤務する看護職員数(実人数) 予定手術稼働日 () 人 それ以外の日 () 人 1日あたりの当直勤務を担当する看護職員数(実人数) 予定手術稼働日 () 人 それ以外の日 () 人 1日あたりのオンコール対応する看護職員数(実人数) 予定手術稼働日 () 人 それ以外の日 () 人 【手術室所属の特定行為研修を修了した看護職員数(管理職含む)】 術後疼痛管理等に係る特定行為研修修了者 () 人
周術期看護の状況	7	術前看護	病院	対象月の1ヶ月間	○ (術前外来を実施した患者数・術前訪問を実施した患者数以外)	術前外来の実施率 () % 術前外来の実施率 = A ÷ B × 100 A：1ヶ月間の術前外来を実施した患者数 B：1ヶ月の手術件数 術前訪問の実施率 () % 術前訪問の実施率 = C ÷ B × 100 C：1ヶ月間の術前訪問件数 B：1ヶ月の手術件数 (周術期看護の状況2)	<術前外来> 看護職員による術前外来の実施 ○あり ○なし (「あり」の場合) 術前外来の基準・手順の有無 ○あり ○なし 稼働日 () 日/週 実施した看護職員の種別 ☐ 手術室看護師 ☐ 外来看護師 ☐ 手術看護認定看護師 ☐ 術後疼痛管理等に係る特定行為研修修了者 1ヶ月間の実施した患者数 () 人 / 月 <術前訪問> 看護職員による術前訪問の実施 ○あり ○なし (「あり」の場合) 術前訪問の基準・手順の有無 ○あり ○なし 実施した看護職員の種別 ☐ 手術室看護師 ☐ 手術看護認定看護師 ☐ 術後疼痛管理等に係る特定行為研修修了者 1ヶ月間に実施した患者数 () 人 / 月
周術期看護の状況				対象月の1ヶ月間	○ (基準)	手術下における褥瘡ハイリスク患者割合 () % 手術下における褥瘡ハイリスク患者割合 = A ÷ B × 100 A：1ヶ月間の手術のうち、褥瘡ハイリスク患者数 B：1ヶ月の手術件数 術前の皮膚脆弱性の評価、および褥瘡予防ケアの実施率 () % 術前の皮膚脆弱性の評価、および褥瘡予防ケアの実施率 = A ÷ B × 100 A：1ヶ月間の手術のうち、術前の皮膚脆弱性の評価、および褥瘡予防ケアを実施した患者数 B：1ヶ月の手術件数	<皮膚障害予防> 皮膚障害予防に関する基準・手順の有無 ○あり ○なし

カテゴリー	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
術期看護の状況	8	皮膚・神経障害予防	病院	対象月の1ヶ月間	○（基準・手順の有無のみ）	術前の皮膚脆弱性の評価、および褥瘡予防ケアの実施率＝C÷B×100 C：術前に皮膚脆弱性を評価し、褥瘡予防ケアを実施した患者数 B：1ヶ月の手術件数 手術下での褥瘡発生率（ ）％ 手術下での褥瘡発生率＝D÷B×100 D：1ヶ月間の術中に褥瘡が発生した患者数 B：1ヶ月の手術件数 手術下での神経障害発生率（ ）％ 手術下での神経障害発生率＝E÷B×100 E：1ヶ月間の退室時に確認できた神経障害が発生した患者数 B：1ヶ月の手術件数	1ヶ月間の手術のうち、褥瘡ハイリスク患者数（ ）人 1ヶ月間の術前に皮膚脆弱性を評価し、褥瘡予防ケアを実施した患者数（ ）人 1ヶ月間の術中に褥瘡が発生した患者数（ ）人 ＜神経障害予防＞ 神経障害予防に関する基準・手順の有無 ○あり ○なし 1ヶ月間の退室時に確認できた神経障害が発生した患者数（ ）人
周術期看護の状況	9	体温管理	病院	対象月の1ヶ月間	○（基準・手順の有無のみ）	術後のシバリング発生率（ ）％ 術後のシバリング発生率＝A÷B×100 A：1ヶ月間の退室時に確認できたシバリングの件数 B：1ヶ月の手術件数	体温管理に関する基準・手順の有無 ○あり ○なし 1ヶ月間の退室時に確認できたシバリングの件数（ ）件
周術期看護の状況	10	手術室における患者・手術部位の誤認防止	病院	対象月の1ヶ月間	○		【患者誤認防止】 基準・手順の有無 ○あり ○なし 手術入室時の患者確認の実施 ○あり ○なし 昨年度1年間の患者誤認件数（ ）件／年 【手術部位誤認防止】 基準・手順の有無 ○あり ○なし 手術部位のマーキングの実施 ○あり ○なし
周術期看護の状況	11	体内遺残防止	病院	対象月の1ヶ月間	○		器材カウントに関する基準・手順の有無 ○あり ○なし 昨年度1年間の鋼製器具紛失件数（ ）件／年 昨年度1年間のガーゼカウント不一致件数（ ）件／年
周術期看護の状況	12	WHO手術安全チェックリストの使用	病院	対象月の1ヶ月間	○		WHOの手術安全チェックリスト使用の有無 ○あり ○なし

カテゴリ	番号	項目名	入力単位	データ期間	自動コピー	算定式 (入力された値に基づき、自動計算 されて、表示されます。)	データ項目 ○：単一選択型の項目、□：複数選択型の項目
周術期看護の状況	13	術後看護	病院	対象月の1ヶ月間	○（1ヶ月間の術後訪問 件数以外）	術後訪問の実施率（ ）% 術後訪問の実施率＝A ÷ B × 100 A：1ヶ月間の術後訪問件数 B：1ヶ月の手術件数	看護職員による術後訪問の実施 ○あり ○なし (「あり」の場合) 術後訪問の形態： ○看護師のみの個別訪問 ○医療チームでのラウンド 術後訪問の基準・手順の有無 ○あり ○なし 1ヶ月間の術後訪問を実施した患者数（ ）人